

日 時 令和元年6月26日(水) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番	工藤和子	2番	黒石ナナ子
3番	三上廣大	4番	大平陽子
5番	工藤禎子	6番	大久保朝泰
7番	大溝雅昭	8番	佐々木隆
9番	今大介	10番	工藤和行
11番	工藤俊広	12番	北山一衛
13番	中田博文	14番	後藤秀憲
15番	村上啓二	16番	村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長	高 樋 憲	副 市 長	有 馬 喜代史
総 務 部 長	阿 保 正 一	企 画 財 政 部 長	鳴 海 淳 造
健康福祉部長兼 福祉事務局長	青 木 金 光	農 林 部 長 農業委員会事務局長併任	高 谷 倉 英
商工観光部長	真 土 亨	建 設 部 長	鳴 海 真 一
総 務 課 長	成 田 浩 基	秘 書 課 長	佐 山 昌
市民環境課長	舘 山 江	企 画 課 長	中 田 憲 人
財 政 課 長	五 戸 真 也	国 保 年 金 課 長	木 村 誠
福祉総務課長	佐々木 順子	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター所長	佐 藤 久 貴
商 工 課 長	山 口 俊 英	土 木 課 長	太 田 淳 也
農業委員会会長	木 立 康 行	選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長	山 田 明 匡
選挙管理委員会事務局長	高 橋 純 一	監 査 委 員	今 田 貴 士
教 育 長	山 内 孝 行	教 育 部 長 兼 市民文化会館長	須 藤 勝 美
学校教育課長	駒 井 俊 也	社 会 教 育 課 長 兼 青少年相談センター所長	八 木 橋 寿
文化スポーツ課長	山 口 祐 宏	黒石病院事務局長	村 上 靖

会議に付した事件の題目及び議事日程

令和元年第2回黒石市議会定例会議事日程 第3号

令和元年6月26日(水) 午前10時 開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事務局 長	幾田 良一
次 長	太田 誠
次 長 補 佐	宮本 節造
議事係 長	佐藤 宏亮

会議の顛末

午前10時00分 開議

◎議長(工藤和子) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第3号をもって進めます。

◎議長(工藤和子) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

3番三上廣大議員、12番北山一衛議員を指名いたします。

◎議長(工藤和子) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

昨日に引き続き、順次質問を許します。

5番工藤禎子議員の登壇を求めます。5番工藤禎子議員。

登壇

◎5番(工藤禎子) おはようございます。日本共産党の工藤禎子でございます。

さきの市議会議員選挙で市民アンケートを実施し、市民の皆さんからたくさんの御意見・御要望が寄せられました。

「近隣市町村より高いごみ袋をいつまで続けるのか」、「水道料金が高い」、「冬場の除雪や通学路の安全確保を」、「国保税が高い。子供を産み育てやすい対策を」、「子ども医療費の無料化を一刻も早く小学校卒業まで踏み出して中学校卒業までにしてほしい」、「給食は義務教育の中学校まで行ってほしい」など、たくさんの声が寄せられ、公約にも掲げました。初心を忘れず、いつでも市民目線で、公約実現のために今後も力を尽くしてまいります。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

質問の第1は、国民健康保険税の引き下げについてお聞きいたします。

国民健康保険には、所得割・資産割に加え、世帯人数に応じてかかる均等割、各世帯にかかる平等割があります。赤ちゃんが生まれたら、とたんに均等割が、黒石市では一人3万4900円ふえます。子育て支援に逆行するのではという声が広がっています。

また、国民健康保険加入者は、現在、年金生活者と非正規労働者が過半数を占めるようになり、国庫支出金の割合は年々下がる中で、中小企業の協会けんぽや大企業の組合健保の加入者に比べて、収入が低いのに保険料が2倍近く高いという、極めて矛盾した制度になっています。こうなるのは、協会けんぽには均等割も平等割もないからです。

そこでお聞きする第1点は、全国の自治体でも数多く取り組まれている、18歳未満の子供にかかる均等割課税額を軽減する考えはありますか、お尋ねいたします。

第2点は、国民健康保険税そもそもの値下げについてであります。昨今、税の収納率は年々上がり、差し押さえ件数も下がり、滞納世帯比率も減少しているようです。そのこと自体は、市民の納税への理解や職員の取り組みもあって喜ばしいことですが、国民健康保険加入者の状況が気になります。食品の値上げが相次ぎ、家計の苦しさは増すばかりです。節約して何とか高い国民健康保険税を払っている。しかし、病気やけがで入院したり、家族に施設入所する人がいると、払いたいのには払えない人が出てきます。ですから、4億5000万円の積立金を使って引き下げるべきではないでしょうか、お聞きいたします。

質問の第2は、子ども医療費無料化年齢の引き上げについてですが、厚生労働省の統計によると、2017年4月現在で、中学校卒業までの助成は、外来で86.16%、入院で94.54%に広がっており、この数値は2年前のデータですから、もっと伸びています。本県の40市町村の中で、黒石市が一番おくれた状態です。

全国的にも子育て支援の一番の目玉として、首長選挙でも公約に掲げることが多くなりました。自治体によって異なる子ども医療費助成の前進をお考えでしょうか、お聞きいたします。

質問の第3は、黒石市指定ごみ袋についてお尋ねいたします。

指定ごみ袋の市の部の値段を調べてたところ、1枚10円未満から1枚40円までが圧倒的でした。「燃やせる・燃やせないごみ袋は、県内で一番高い。何とかならないか」という声は、本当に多いんです。ごみ袋の有料化が平成20年1月にスタートし、10年が過ぎました。ごみの排出量にも貢献してきました。指定ごみ袋の値下げを、ぜひ、お考えいただきたいと思います。

質問の第4は、市立図書館整備についてお伺いします。

建設予定地が、図書館としては場所も狭いし、本当に適しているのかという疑問もあります。関連団体の皆さんもこの場所でいいということのようですから、今後の市立図書館のあり方を、行政としてどのように考えているのか、お聞きします。

質問の最後は、市庁舎にかかわる今後の考え方についてお聞きし、壇上からの一般質問を終

わかります。

(拍手)

降壇

◎議長（工藤和子） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤禎子議員にお答えいたします。私からは、黒石市の指定ごみ袋について答弁させていただきます。

市の指定ごみ袋の価格は、平成20年1月の家庭ごみ有料化導入時、黒石地区清掃施設組合における平成17年度のごみ1キログラム当たりの処理費用37.17円をもとに、2割の負担をお願いしております。一例として、45リットル袋には8キログラム前後のごみが入り、1袋当たりの処理費用は297.36円となり、その2割が59.47円となることから、60円としてごみ処理費用の御負担をお願いしてまいりました。

一方、現在の処理費用は、平成29年度の数値が最新となりますけども、ごみ1キログラム当たりの処理費用は39.64円であり、1袋当たりの処理費用は317.12円となり、その2割で換算しますと63.42円となりますが、60円としてごみ処理費用の御負担をお願いしているところがあります。

市民の皆様の御協力により、ごみの排出量は着実に減っていることから、今後、黒石地区清掃施設組合における処理費用の動向を見つつ、ごみ袋の価格設定の根本的な考え方について、さまざまな角度から調査・研究してまいりたいと考えております。

市民の皆様には、引き続き分別によるごみ減量化並びにリサイクルの促進に御協力いただきますよう、お願い申し上げます。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降壇

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 私からは、市庁舎にかかわる今後の考え方について答弁させていただきます。

市庁舎の建築については、黒石市中心市街地活性化基本計画において市民サービス施設へ窓口業務の移転を予定しているほか、現庁舎の耐震診断結果を踏まえ、市民の安心・安全確保のため、新庁舎については、議会棟を含め、検討を重ねているところであります。以上であります。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 私からは、市立図書館整備について答弁させていただきます。

図書館は、生涯学習や社会教育による人材育成の拠点として、図書の貸し出しを中心に発展

してまいりましたが、近年では、インターネットやスマートフォンの普及など、情報化社会の進展により、情報拠点としての役割も期待されております。加えて、その高い集客力や地域との連携力から、まちづくりを担う施設としても注目されています。

本市の図書館のあり方としましては、まずは基本である読書環境や学習環境の確保、読書活動の推進といった「学びの図書館」、次に、周辺施設と連携し、情報拠点としての機能に加え、世代ごとの憩いの場を設け、人々が集い中心市街地活性化につながる「賑わいの図書館」、そして、文化芸術活動やボランティア活動によってコミュニティを維持し、人口減少社会に対応する「市民の力を育む図書館」といったものが考えられます。

これらのテーマにつきましては、先日開催しました図書館整備推進懇談会において委員の皆様にお示ししたところですが、今後は、同懇談会に専門家によるコーディネーターやアドバイザーを交えて議論するほか、一般市民を対象とした市民ワークショップの開催も予定しており、本市にとってふさわしい図書館のあり方について、しっかりと検討してまいります。

なお、検討状況につきましては、随時、市の広報やホームページでお知らせする予定でございます。以上です。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 私からは、国民健康保険税の引き下げについて子ども医療費無料化年齢の引き上げについてお答えいたします。

まず、子育て世代の経済的支援策として、18歳以下の被保険者にかかる均等割を減免できないかということと、市民から国民健康保険が高いという声があるので、基金を利用し、引き下げることはできないかということについてお答えいたします。

18歳以下の均等割額を軽減した場合、財源として考えられるのは一般会計からの繰り入れが考えられますが、一般会計から国民健康保険特別会計への繰り入れについては、当市では、出産育児一時金に係る経費、国保財政安定化支援事業、さらに、保健税負担の緩和を図るとともに、国民健康保険の財政基盤安定に資するための保険基盤安定制度の法定で定められている項目のみを繰り入れしております。

そのため、一般会計から18歳以下の被保険者にかかる均等割額を繰り入れすることは、税の負担を軽減するための繰り入れであり、法定外繰入になることから、軽減は考えておりません。

なお、全国知事会並びに全国市長会では、医療保険制度の公平の観点から、子供に係る保険税の軽減措置の導入について、国に要望しているところでございます。

次に、国民健康保険税の引き下げについてですが、平成30年度の速報値では、県内の一人当たりの国民健康保険税の平均値は9万4701円で、当市は9万8853円、県内では18番目、市部では3番目となっております。

平成30年度からの県の広域化に伴い、市町村は県に国民健康保険事業費納付金を納付することになり、この事業費納付金は、医療給付費・後期高齢者支援金等・介護納付金を含む費用で、これらにかかる公費と保険税収入を財源としています。

近年の国民健康保険加入者の減少に伴う国民健康保険税の減や、高齢者増による一人当たりの医療費が年々増加していることから、今後、事業費納付金の財源が不足すると見込まれ、基金を活用して対応することになり、国民健康保険の安定した財政運営のためには、引き下げは考えておりません。

次に、子ども医療費無料化年齢の引き下げについてお答えいたします。

少子化対策の一環として、子供が医療を受ける環境は全国一律にすべきであると考え、市では、県選出の国会議員や青森県市長会等を通じて、国に対して強く働きかけております。同時に、子供を産み育てやすい環境づくりを目指す立場から、子ども医療費無料化年齢については、市独自でも最終的に他市町村と同程度まで引き下げるべき課題と考えております。市といたしましても、就学前児童の通院・入院費に加え、平成30年度からは小学校児童の入院費を無料化しております。本事業に活用している県の乳幼児はつらつ育成事業が、平成30年10月から所得制限を緩和し、対象児童の拡充を行ったことによる市負担分への影響も注視しながら、段階的な年齢の引き上げについて検討してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和子） 再質問を許します。5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 順番に聞いていきたいと思えます。まずは、国民健康保険税の引き下げのことなんですけれども、減免対象になる子供さん、例えば小学校、中学校、高校と考えた場合の人数と軽減される金額、黒石市は均等割が高いのでどれくらいになるのか、お聞きします。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 高校卒業まで減免した場合は、加入者828人分で約2020万円、中学校卒業まで減免した場合は、加入者661人分で約1630万円、小学校卒業まで減免した場合は、加入者482人分で約1200万円の財源が必要となる見込みです。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 先般も、姉妹都市である宮古市さんが18歳までの均等割の軽減をしたことを御紹介しましたけれども、その財源をどこから持ってきたのか。それは、ふるさと納税の寄附金で、市長におまかせ基金というのが2000万円弱あり、それを宛てたと。例えばそういう形で検討するということはあるのかどうか。これは、子育て支援政策としての位置づけですから、単純に国保会計に法定外繰入をするようなものではないと考えておりますが、どのようにお考

えか、お聞きします。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 均等割を減額して何かの財源を宛てるということは、税の負担を軽減することになりますので、法定外繰入になるものと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 国は望ましくないとかという表現は使っていますけれども、法廷外繰入はするなという指導はしていません。全国的に見れば、国保会計の圧迫を避けるために法定外繰入をしているところはあります。弘前市もそうですよね。宮古市の山本市長さんは、昔の人頭割ともいえる過酷な均等割を、せめて子供の分だけでも免除する、動機としての子育て支援だと、そういう政策なんだということで決定したということなんです。

当市のふるさと納税の平成30年の実績は、約7000万円なんです。それは自由に使えて、いろんな事業に宛てているわけです。ことしも目標は7000万円だと聞いているんですけども、5月末までで1050万円くらいになっているみたいですので、今年度は1億円近く行くかもしれないという雰囲気も聞きました。そこから見れば、市長におまかせの部分をごくに回すという考えもできるのではないかと思いますけれども、どうでしょうか。

◎議長（工藤和子） 市長。

◎市長（高樋憲） ふるさと納税という制度が、国の制度で永遠に継続されていくことが確約されるのであれば検討する余地はあるのかもわかりませんが、現在の段階で、いつ、どのような状況になるのかわからない、また、その財源も、その年によって多く入ったり少なくなったりで確定するわけではない状況の中で、そのような用途に活用するのは、私はいかなるものかというふうに考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 根本が、余りやろうとするところがないので、そうなると思うんですけども。これは、全国のこれからの動向も見ながら、また、国での変化もあるかもしれませんので、これからも訴えていきます。

国民健康保険の2つ目で、国民健康保険税そのものの引き下げですけども、平成30年度の国民健康保険の決算見込みでは、どれくらいの基金が累積でたまることになるのでしょうか。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 平成30年度の基金の見込みは、9000万円ほど積み立てて、5億4000万円ほどになる予定です。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 5億4000万円ほどですね。着実に黒字がふえているわけですがけれども、例えば、平成31年度の見込みも見られる状況はありますか。予想をお知らせ願いたいと思います。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 令和元年度ですが、県への納付金が平成30年度に対して9000万円ほどふえています。それに対して税の伸び率はふえませんが、基金を1億円ほど取り崩して納付金に宛てる予定です。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 今おっしゃっているように、去年の4月に国民健康保険の運営そのものが都道府県に移管されて、2年目になります。2019年度の標準保険料率をもとに国民健康保険税を試算すると、全国8割の自治体で大幅な値上げということが示されました。その中で、黒石市の値上げはどの程度になるかがわかりましたらお知らせください。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 本市としましては、現在、基金がございますので、国民健康保険税の値上げは検討しておりません。4年間で1億円ずつ取り崩していった場合、国保運営には問題ないと考えておりますので、その後、県の動向を注視しながら検討してまいります。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうすると、どういうふうになるということですか。試算では値上げが求められるんだけど、それを基金から宛てて、黒石市は4年間値上げをしないでいくという方向を今おっしゃったということですよね。もう1回確認したいと思います。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 現在は、そのように考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） それでは次の子供の医療費についてに移らせていただきます。

子供の医療費は、今、外来は就学前まで、入院は小学校卒業までということで、少しは進んだんだけど、40番目なんですよ。ほかは、外来も入院も小学校・中学校までが8割方になっています。高校までというのも五、六町村ありましたかね——というふうに県内でもなっているわけなんです。確かにお金が絡むことでもありますので、そういう点では、小学校3年まで、あるいは小学校卒業までというふうに外来分を無料化するとすれば、どのくらいだと試算しているのか、お聞きします。

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 今現在、手元に小学校3年生までの通院を無料とした場合のデータがありますので、お答えいたします。平成28年度の医療費を元に試算した数値では、事業費で約5932万7000円、現行との差額で約1289万8000円が必要となります。なお、この試算は、平成30年10月の県の乳幼児はつらつ育成事業制度の改正前の試算であります。以上です。

（「小学校3年生までと卒業までの2つ聞いている」と呼ぶ者あり）

◎議長（工藤和子） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（青木金光） 小学校6年生まで外来を無料にした場合は、2365万2000円ほどふえる予定です。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） どういうふうにしてその気になって財源を確保するかということになると思います。確かに国がやるべきというものはあるでしょうけれども、これまで全国的に県や市町村がやっている状況の中では、黒石市も考えていかなければいけないと思うんですけども、市長の御判断をお聞きしたいと思います。

◎議長（工藤和子） 市長。

◎市長（高樋憲） この子供の医療費の問題につきましては、本来日本人であればどこに行っても同じ対応になるのが当たり前の姿だと、私自身、考えております。日本に住んでいる子供であれば、全ての人と同じ待遇を受けるのが当たり前の姿だというふうに感じております。そういう部分で考えますと、この医療費問題は、国の責任のもとでやるべきことであり、まして、A市とB市の違いがあるということは、本来あるべき姿ではないと、私自身、考えておりました。

ただしかし、現実には人口減少社会に入り、定住人口をふやすことを優先するがゆえにそういう方針を明確に打ち出し、積極的に取り組んでいる市町村もありますけれども、私は、人口定着においてはそのようなことで競い合うのではなく、市の魅力、あるいは市の未来という大きな次元で議論をしながら判断していただけるような環境づくりをするべきだと考えておりましたので、できれば、財源があれば、他市と同じようなものはやっていきたいという気持ちはあります。しかしそれ以前に、まずは国がしっかりした制度をつくり上げて、国民みんなが等しく医療の恩恵を受けられるような環境にさせていただくのが、私はあるべき姿だと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 市長はずっとそういうお話なんですけれども、確かに根底ではそうなんです、実際、年々無料化をする自治体がふえているんです。先ほど競い合うというふうに表現

しましたけれども、競い合うというよりも、これは子供支援対策ですから、健康と命の問題にかかわることは優先してやらなければならないという、首長の判断だろうなというふうにも思います。首長選挙戦で、革新だけじゃなく自民党候補者も含めて給食の無償化だとか、子ども医療費の年齢を中学校までやりますとか、高校卒業までやりますとかということを掲げるんです。それはやっぱり有権者にとって必要といたしますか、関心の高いことなのかなという捉え方だと思うんです。

年々進んでいる中で国が国がというけれども、国はなかなか、消費税待ちだったり、この間は保育料の無償化もやりましたので、すぐやるかどうかは、国レベルでは余り期待できないかもしれません。

さっきふるさと納税の市長におまかせの話もしましたけれども、そういう形で決断すれば少しは進むと考えます。小学校1年生が外来でも6割くらい、もっといくのかな。小学校1年生は外来にかかる子が非常に多いということなんです。それで600万円くらいじゃなかったかなと思うんですけれども、正確じゃなかったら、後で答弁において訂正してほしいんですが。それに少しでも向かっていくという腹のくくりが、市長も必要なんではないかなと思うんですけれども、その点、もう1度お聞きいたします。

◎議長（工藤和子） 市長。

◎市長（高樋憲） いずれにしても、持続可能な財政運営をしっかりと持った上で、一つ一つの政策を実現していかなければいけない、また、実行していかなければいけないと考えておりますので、私自身も、今いまがよいのではなく、今後10年、20年の黒石市の財政のあり方とをしっかり踏まえた上で、検討、また、対応をしていきたいというふうに考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） ありがとうございます。それでは3番目の黒石市指定ごみ袋についてお聞きいたします。

考え方なんですけれども、カラス対策も含めて黄色い燃やせるごみ袋をつくりました。割と厚いしっかりしたものですけれども、一方では、ごみステーションがボックス化してほとんど箱などに入っておりますので、ごみのカラス対策は考えなくてもいいかなと思うのです。なぜそう言うかということ、製造段階での見直しをしてコスト削減が可能だと引き下げの根拠として出てくるのではないかなと思うんですけれども、どうでしょうか。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 袋の形状や材質の経費抑制で、ごみ袋の価格を下げることに繋がらないかという御質問だと思われまますけれども、市指定のごみ袋の価格は、先ほども市長答弁に

もございましたが、黒石地区清掃施設組合におけるごみ処理費用を基に算定し、御負担をお願いしております。袋の形状及び材質変更等による経費抑制が指定ごみ袋の価格に反映される現状ではありませんので、これをもって袋の価格を下げることは、現時点では考えてございません。

また、現在の市指定ごみ袋の形状及び材質変更については、平成25年7月導入前の実証実験において御参加いただいた市民の意見として、「カラス被害が減った」、「レジ袋型で持ち手とまちがついたことにより、扱いやすいごみ袋であり、採用すべき」などの回答が多数を占めたため導入に至ったものであり、袋の見直し検討を行う予定はございません。

なお、この形状及び材質変更に伴い、指定袋の製造費用は以前の指定袋に比べ、確かに上がっていますが、販売価格については、ごみ袋有料化が実施となった当初より変更することなく、市民の皆様にはこれまでと同じ価格で、よりよいものを御提供し、お使いいただいております。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 確にかかると経費の2割ほどを持つという逆算で、ごみ袋の値段を10年前に決めたと思います。私は反対したけれども決まりました。目的を持たないで、清掃施設組合の負担金を網羅して、たまたま3億円ですから、2割というと6000万円になりますね。大体それくらいのごみ袋の売り上げになっているんですけれども、その間、炉の改修だとか爆発事故もあったりしました。そういうのも加算されているわけですよ。老朽化もあるからそれは仕方ないとして。北海道の帯広や釧路では、確かに100円とか120円とかもあるんですよ。そこは、ちゃんと充当を決めてるんです。ごみの収集委託料、ごみ収集に係る袋の売りさばきなども含めて、通信料とか委託料とか、そういうことにきちんとあててやっているということなんです。そうすると、何かまた事故があつて修繕費とか、改修費とかが出た場合、ずっと清掃施設組合の2割となつてると、もっと上がるかもしれません。そういうんじゃなく、市民が負担するのは、目的をはっきりさせた形でやるべきではないかと思うんですけれども、どうでしょうか。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 確かに、ごみの処理に係る清掃施設組合の分担金の額もでございます。ただ、3億円というのは、し尿も含めた全体額だと認識しております。ごみ処理だけにかかる分であれば2億数千万円になっています。それはそれで、清掃施設組合さんには経費の節減に努力していただいているところでもありますので、そこは引き続き、市としてもお願いしてまいりたいと思っております。いずれにしても、先ほど市長も答弁いたしました、ごみの排出量は着実に減っているという現実もございますので、ごみ袋の価格設定について、根本的な見

直しをしてまいることで御理解いただきたいと思います。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 前向きに捉えて、引き下げるという見直しだというふうに、見直したけれどもそのままということはないように、何とか頑張っていたきたいと思います。

これは提言にしたいと思いますが、分別、資源リサイクルのことですけれども、市民が一番手短に取り組めるのは、分別なわけですよ。効果的なのは、出さなければいいわけですよ。出さないとすればリサイクルを進めなければいけないということと比例するわけなんです。

混ぜればごみで、分ければ資源という言葉が飛び交いましたけれども、市民一人一人の責任で終わらせないで、分別してもらうためには、分別しやすい方法などや仕組みなどを、行政も整えていくということが必要だと思います。そうすると、行政でも行うべきことも、いろんな角度から見ればたくさんあるのではないかなとも思います。第6次総合計画ではリサイクル率を14%に掲げています。令和6年くらいまでかな。でも、国の目標は27%くらいなんです。これは、ごみをきちんと出してくださいとかどうとか、出さないあなたがだめだとかの次元ではなく、ごみを減らす、きれいなクリーンな黒石市をつくる、そういうエネルギー的な考え方というか、そういう発想や目標を持って、よく市長も言う20年後30年後の視点で、きれいな自然を残していこうというような発想が必要なのではないかなと思います。そういうところから、いろんな目標値も取り組み方法も決まってくるのかなと思います。この部分は提言なので、答弁は要りません。

市立図書館整備についてに移ります。行政でもいろんなあり方については考えているようなんです。この間も議員の方たちからも、その場所で心配だという声も含めて、あるいは県内10市の中で最後にできるんだから、やっぱりいいものにしたよなという話も出ておりました。ですから私は、小さくても全国から注目されるような図書館にするにはどうすればいいのかな、行ってみたい図書館にするにはどうすればいいか、地元の人も誇れる図書館にするにはどんな内容にすればいいか、そういう優れた図書館づくりを目指していただきたいなと思います。

建物の中でいえば、もちろんバリアフリーです。周りも、市長がよく言うユニバーサルデザインもしっかりやっていくと。そして、これからは外国人も来ますので、外国人も利用できる本、あるいは、点字なども含めた障害者の力になるコーナーなども必要だし、もちろん子供の成長につながるものは基本的だし、昔と違って情報化の時代なので、市民が情報を得る場も図書館の役割となっています。そういうのもきちんと取り入れられるようなというんですか、具体的に目指している方向は、さっき、箇条書き的に聞いたんですけれども、ちょっとまだイメージとしてはわからなかったのか、部長、もう1回お願いします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 今、構想を練っている段階でございます。先ほど議員から提言がございましたバリアフリーとか、外国人とか障害者にも優しいということもありますが、それも含めて、今後、図書館整備推進懇談会の中で市民の意見をお伺いします。それと、ワークショップの中で市民の意見をお伺いします。そういうのを勘案して、また、財政の状況を勘案しまして図書館の整備に向けて検討していきたいと思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） まだこれからですから。休憩できる、喫茶店的なものも備えたいということも、前、市長もおっしゃっていました。今しゃべったことや私が感じていることは、回遊した人たちが一休みする、足を休める場所ということだけではなく、お店も全部図書館の一部という形で、新刊本でも何でもいいんですけれども、そこにも本を置く。あるいは、アンケートみたいな用紙もつくって、大体歩いてきて座れば、地元の人であれ観光客であれ、あそこがよかったとか、だめだったとか、いろんなことが出ますので、その声を大事にするという点では、アンケートなども、喫茶店の中だけでなく図書館でもいいんですけれども、そういうのも気軽におしゃべりとかするわけですから、そういうところでも観光客の声をできるだけ拾う、見逃さないというのもセットにした、休憩するところ、そういう工夫が必要ではないかと思えます。それは提言ですけれども。

それでは、最後の市庁舎かわる今後の考え方に入ります。庁舎そのものは、震度6強以上に耐えられないということなので、一刻も早くこの状態からは脱した方がいい、この場に余りいない方がいいということになるわけですね。旧大黒デパートの跡にどこの部署が行くかわかりませんが、全部行けるわけではないわけですね。それでさっき、ちょっと議会棟は検討するかなと、ちらっと言われたような気がするので、議会棟であれ市長室であれ、残る課は、どういうふうに関後考えているのか、お聞きしたいと思います。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 議会棟を含め、新しく建築されます市民サービス施設へ移転できずに残る部署も想定していますが、それらを含め、議会棟も含めて、先ほど答弁いたしました、検討を重ねているところでございます。以上です。

◎議長（工藤和子） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） それでは、庁舎内の建設検討委員会みたいなのを設置するお考えはありますか。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 庁内では、既に関係部署が集まって何回か検討はしておりますが、旧

大黒デパート跡地の事業が動き出しておりますので、検討委員会も正式に、スピード感を持って運営していくとさせていただきます。以上です。

◎議長（工藤和子） 以上で、5番工藤禎子議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和子） 次に、7番大溝雅昭議員の登壇を求めます。7番大溝雅昭議員。

登壇

◎7番（大溝雅昭） 皆さんこんにちは、新自民・公明クラブの大溝雅昭です。

令和元年第2回定例会におきまして一般質問をいたします。

4月の選挙で5期目の当選をすることができました。御支援をいただきました皆様に感謝するとともに、これからも市民の話を聞き、市民に説明をし、市民とともに行動する議員を目指してゆきたいと思っております。

去る6月18日午後10時22分、新潟や山形を襲ったマグニチュード6.7の地震では、即座に津波注意報が出されました。総務省消防庁によると、5県で32人が重軽傷を負い、住宅では山形県鶴岡市で97棟、新潟県村上市で46棟、秋田県でも2棟の一部損壊が確認されました。未知の断層が原因だったということですが、今回の震源地を含む一帯は、日本海東縁ひずみ集中帯と呼ばれています。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げますとともに、昨日の三上議員の質問にもありましたが、災害対策の必要性を感じる次第であります。

さて、市役所に来るといつも気になることがあります。市役所の駐車場の白線が見つらく、非常に駐車しづらいことです。1台が変に置いてしまうと後の車がどうやって置けばよいかわからず、とんでもないことになっているのを上から見るがあります。市役所には、いつも慣れた人が来るわけではありません。ある市民には、「お金がないからといってこんなことすらできないのは、めぐさい」とも言われたりしました。市民のための当たり前のことですので、すぐの対応をお願いいたします。

それでは、通告に従い質問いたします。

質問の1番目は、地区協議会との意見交換会についての質問であります。

ことしも7月から市長と地区協議会との意見交換会が始まります。10の地区を市長が回ることは、地域の声を直接聞けるということで、とてもよいことだと思います。直接民主主義に近い形で、黒石だからこそできることかもしれません。

アは、去年の課題と成果についてであります。

まずは、去年の内容はどうだったのか、市からの課題とは何だったのか、成果についてお尋ねいたします。

イは、ことしの課題についてであります。

ことしのスケジュールと、ことしの市からの課題は何なのかを、お尋ねいたします。

2番目は、黒石市立図書館整備推進懇談会についての質問です。

市立図書館の建設は、中心市街地活性化基本計画の中でも重要な事業の一つであり、図書館のない黒石市にとっては念願のことでありました。しかし、多くの市民が利用し、愛される施設でなければなりません。前回も聞きましたし、今回もいろんな議員が取り上げておりますが、図書館整備推進懇談会が始まり、中身についての検討が始まりましたので質問いたします。

アは、スケジュールについて。

懇談会と建設のスケジュールはどうなっているのか、お尋ねいたします。

3番目は、小・中学校適正配置後の登下校についての質問です。

令和2年4月の統合に向けて、児童の通学の安全に対し、きのうも多くの議員が質問しております。とても重要なことですので、重複しているところもありますが、違った視点もありますので質問いたします。

アの通学路について。

まずは、適正配置後の通学路の課題と対策についてお尋ねいたします。

イのスクールバスについて。

バスの台数と経路はどうなっているのかをお尋ねいたします。

4番目は、スポーツ活動推進についての質問です。

適正配置で今までの学校がなくなるので、学校開放事業そのものがなくなるという今までの説明がありました。しかし、適正配置が市民サービスの低下をもたらすことはない、適正配置の計画が始まったところに説明を聞いた覚えがあります。

アは、小・中学校適正配置後のスポーツ施設の確保についてであります。

まずは、市民のためのスポーツ施設の確保に対する考えはどうか、質問いたします。

イは、2025年青森国民スポーツ大会への対応状況についてであります。

国民スポーツ大会への対応状況についてお尋ねいたします。

5番目は、市職員の採用と待遇についての質問です。

少子高齢化で労働人口が少なくなり、いろいろな業界で人手不足が表面化してきております。優秀な人材確保が課題となりますが、市職員の人材確保と待遇の改善が必要だと考えます。

アの採用についてであります。広く優秀な人材を集めるために、職員の採用の方法が変わったと伺っております。まずは、採用の方法はどのように変わったのか、お尋ねいたします。

イの待遇について。

現在、給与カットしている状況ですが、職員の給与カットは、いつからどのようにしているのか、今までの経緯をお尋ねいたします。

ウの働き方改革についてであります。2018年通常国会で働き方改革関連法が成立しました。働き方改革の3つの柱は、長時間労働対策、定年延長や再任用、同一労働同一賃金の3つであると考えられます。この3つの柱に対する市の対応についてお尋ねいたします。

質問はこれまでですが、中心市街地活性化基本計画に基づく新しいまちづくりが、今、始まろうとしています。多くの市民も注目しておりますので、大いに議論して、よりよい黒石づくりをしていきたいと考えております。

以上で、壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（工藤和子） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 大溝雅昭議員にお答えいたします。私からは、地区協議会との意見交換会について答弁させていただきます。

まず、昨年の課題と成果についてでありますけれども、昨年開催いたしました市長と地区協議会との意見交換会への出席メンバーについてですが、市側は、市長、副市長のほか、各部長、担当課長が出席しております。地区協議会側は、地区協議会の会長を初めとする役員や町内会長のほか、地区社会福祉協議会、地区婦人会、地区老人クラブ、地区子ども会育成連絡協議会、母親クラブ、PTAなど、関係団体の役員の方々に参加していただいております。

市から提案したテーマについてですけれども、ごみの分別について、高齢者宅除雪について、消防団・自主防災組織について、コミュニティビジネスについて、子ども会・子ども会育成会についての5項目を提案し、意見交換を行っております。

成果についてですけれども、市長と地区協議会との意見交換会は、地区要望の中の特に説明が必要な項目や地区協議会から提出のあったテーマのほか、市からのテーマについて意見交換を実施しております。意見交換会を実施することにより、市と地区協議会それぞれの考え方や現状を情報共有することができたほか、今後、どのような役割分担により進めていくことが望ましいのかが明確になったのではないかと感じております。

その中で、これまで市が提案してきましたコミュニティビジネスにつきましては、取り組んでみたいと回答をいただいた地区協議会もあり、事業の実現に向けて協議をしております。

今後は、市と地区協議会と一緒に、実証実験も含めて具体的な進め方を検討し、どうすれば本格的に実施できるのか、検討していきたいと考えております。

令和元年度の市長と地区協議会との意見交換会につきましては、令和元年7月1日月曜日を初日といたしまして、7月19日金曜日までの間の10日間で実施する予定になっております。

次に、市から提案したテーマについてでありますけれども、第6次黒石市総合計画について、

地域包括ケアシステムについて、空き家対策についての3項目について提案しており、より黒石力の向上に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降壇

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） まず、大溝議員の質問の冒頭にございました駐車場のラインについて、若干答弁をさせていただきます。これまで駐車場のラインがうっすらと見えていた感じはしていましたが、いよいよ見えなくなってきたのは、担当課としても承知しており、課内では話題にしてございました。駐車区画を区分する表示については対応が必要と考えておりますので、検討させていただいております。御理解いただきたいと思います。それでは、一般質問のほうへ。

私からは、市職員の採用と待遇についての、採用方法はどのように変わったのかについて答弁いたします。

現在、全国の雇用情勢は着実に改善し、バブル期に次ぐ人手不足となっており、当市を志望する学生も年々減少傾向となりました。一般行政職の上級の受験者は、平成23年度の133人をピークに年々減少を続け、平成29年度は44人でありました。

当市の職員採用候補者試験は、平成29年度までは、日本人事試験研究センターが提供する、いわゆる公務員試験を実施していましたが、このような受験者の減少を改善するため、受験者の増加が見込まれるSPI3、これは総合適性検査の略になります、SPI3試験を平成30年度から導入しております。

このSPI3試験は、受験者の基礎学力を検査する基礎能力検査と性格を検査する性格検査の2つの観点で検査を実施し、平成30年度では、年間約1万3200社の企業から活用され約202万人が受験する、全国で最も利用されている試験であります。

この試験制度による主な改正点ですが、試験会場として全国47都道府県に開設されるテストセンターにおいて受験することができる点、また、試験の実施時期を多くの受験者が就職活動を行う5月から7月の時期に早めた点、受験期間を1日だけではなく約1カ月の期間の中で、受験者の都合のよい日に受験できるようにした点、受験の申し込みがパソコンやスマートフォンを利用したリクナビといわれる就職情報サイトを活用した点などが挙げられます。

この試験の導入により、平成30年度の実績では、一般行政職の上級の受験者は106人となり、平成29年度と比較して62人増加、今年度は113人に受験していただきまして、さらに7人増加しており、相当程度受験者数を確保することができております。

次に、いつからどのように給与削減が行われてきたのかという御質問でございますが、職員

等の給料の削減は、平成17年度から始まり、平成17年度から19年度まで全階級一律5%の削減、平成20年度と21年度は階級に応じ13%から8%の削減、平成22年度から今年度にかけては削減率の緩和を続け、今年度は7級の職員が6%、6級が5%、5級が3%、4級が2%の削減率となっております。

また、期末勤勉手当の削減についてですが、平成16年度から始まり、平成16年度が役職の加算割合に応じて8から6%の削減、平成17年度は20から15%の削減、平成18年度から20年度は18から10%の削減、平成21年6月が8%または5%の削減、平成21年12月から22年6月までは9から1%の削減を行いました。期末勤勉手当の削減は、平成22年12月以降は行っておりません。

続きまして、働き方改革による長時間労働、再任用・定年延長、同一労働同一賃金に対する市の対応について答弁させていただきます。

当市における働き方改革への取り組みについてですが、働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律が施行され、長時間労働の是正措置として、平成31年4月1日以降、時間外勤務を命じる場合には、原則、1カ月45時間及び1年360時間の範囲内で必要最小限とすることとされました。

これを受け、平成31年3月20日に市職員に対して周知を図り、重ねて、各所属長に対し、時間外勤務命令の適切な執行について通知しております。

次に、再任用・定年延長制度についてですが、政府は平成30年6月の「経済財政運営と改革の基本方針2018」において、「公務員の定年を段階的に65歳に引き上げる方向で検討する」旨を閣議決定しており、また、平成30年8月10日の人事院勧告においても、「定年を段階的に65歳に引き上げることが必要」との意見の申し出がされております。

今後、国家公務員法並びに地方公務員法が改正されることにより、当市の職員の定年の延長がされるものと考えて、再任用制度については、これまでの方針どおり、制度を活用しないこととしてございます。

次に、同一労働同一賃金の取り組みにつきましては、地方公務員法並びに地方自治法の一部改正により、令和2年4月1日より「会計年度任用職員制度」が全国の各自治体において導入され、当市においても、今年度中の条例及び規則の整備、制度内容の周知を行っていく必要がございます。

この会計年度任用職員制度は、これまでの臨時職員や非常勤職員の任用・勤務条件などを大幅に改善する制度であり、給料の支給額の改善や通勤手当の支給など、処遇面の大幅な改善につながるものであります。以上です。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 私からは、黒石市立図書館整備推進懇談会について御答弁させていただきます。

市民団体や利用者団体の意見を伺うため、図書館整備推進懇談会を5月31日に設立いたしました。第1回懇談会では、飲食スペースや郷土歴史コーナーの設置、市民活動のための会議室を設けるなど、活発な意見が出されました。今後、委員と有識者による懇談会を4回開催し、必要となる機能やサービスなどについて意見交換を行い、年度内に基本構想・基本計画を策定いたします。

次に、建設までのスケジュールですが、令和2年度に実施設計、令和3年度に本体整備を行いまして、その後、蔵書の移動など開館に向けた準備作業を進めて、令和4年度の図書館開館を目指しております。以上です。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 私から、小・中学校適正配置後の登下校についての、ア、通学路について、統合後の通学路に関する課題と対応策についてお答えいたします。

各統合校共通の課題としては、新たな通学路の状況把握が必要となること、また、児童数の増加に伴う自家用車での児童送迎による学校周辺道路の混雑が挙げられます。

まず、新たな通学路の状況については、統合準備委員会の部会において通学路の点検を行うこととしているほか、毎年、各学校で点検確認を実施して作成した安全マップを活用するなどして、危険箇所も含め、その状況把握に努めていくこととします。

次に、学校周辺の道路の混雑への対応としては、統合準備委員会・学校とも意見交換をしながら、自家用車の乗り入れ時間や場所について、一定のルールづくりを進めてまいります。

また、地域の方からは、新設黒石小学校周辺への新たな横断歩道の設置を望む声もあることから、その実現に向けて、警察と協議を進めております。

次に、イのスクールバスについて、バスの台数と経路はどうなっているかについてお答えいたします。

新設黒石小学校のバスの台数は3台で、経路が、1つ目として中馬場尻・新村・大村・派村ルート、2つ目として二双子・飛内・小屋敷・目内澤ルート、3つ目として青山・袋井・境松ルートの3経路、新設黒石東小学校のバスの台数は5台で、経路が、1つ目として豊岡・石名坂・牡丹平ルート、2つ目として浅瀬石・清川ルート、3つ目として高賀野・中川・追子野木三丁目ルート、4つ目として追子野木一丁目ルート、5つ目として追子野木一丁目・二丁目ルートの5経路、計8台、8経路での運行となります。

次に、スポーツ活動の推進についての、ア、小・中学校適正配置後のスポーツ施設確保について、市民に対してスポーツ施設を確保するための考え方についてお答えいたします。

市民のスポーツ施設確保についてですが、学校教育に支障のない時間帯に市内スポーツ団体が利用されている学校体育施設開放事業や、市内スポーツ施設であるスポカルイン黒石アリーナで実施されている週2日の一般開放、市スポーツ交流センターの一般利用を考えています。

また、市内の各地区公民館の体育館を、地区の行事が優先ではありますが、施設に空きがある場合、それらも利用できないかを模索しているところです。

いずれにいたしましても、教育委員会では、これら既存の施設を有効に利活用して、市民のスポーツ施設の確保に努めてまいりたいと考えております。

次に、イの2025年青森国民スポーツ大会への対応状況について、国民スポーツ大会に係る現状についてお答えいたします。

2025年に本市で開催を予定しているバドミントン競技の中央競技団体正規視察が5月22日に開催され、公益財団法人日本バドミントン協会から2人の視察員が本市を訪れ、バドミントン競技開催に係る概要説明や会場となるスポカルイン黒石の視察を行っております。

当日、視察員による講評の中で、競技施設は過去の国民体育大会開催地の競技施設と比べても遜色がないことや、競技役員養成計画等も順調に進んでいるとの評価を得ております。

今後も、快適な協議環境の整備とスムーズな大会運営が図られるよう、努めてまいります。以上です。

◎議長（工藤和子） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員の再質問を許します。7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） それでは通告順に再質問をしていきたいと思っております。

まず、地区協議会との意見交換について。昨年は、市の部長、担当課長、そしてまた各協議会の役員のほか、いろんな団体の方も出席して行われたということで話がありましたけれども、各地区からはどのような要望が多かったか。昨年は終わっているのですが、各地区からどのような要望が多かったか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 地区協議会からどのような要望があったか、多いかということですが、すけれども、市長と地区協議会との意見交換会において、地区協議会から特に意見交換会のテーマとしたい内容として、6地区協議会から11項目の提出がございました。主な項目につきましては、公民館職員の処遇改善や地域防災に係る人材育成、地区協議会の自主自立のほか、小学校の統合後についてなどが地区協議会からのテーマとして提出がございました。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 昨年の話を聞きますと、各地区から地区要望への回答を求めるといふもの

結構あったかと思うんですけども、地区要望と市長との意見交換会の関係性というか違いについては、どのように捉えているのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 地区要望と意見交換会の関係性についてですが、地区要望は、地区協議会を構成する町内会から提出のあった項目を順位づけして提出されるもので、側溝整備や防犯灯の設置など、生活に密着した数多くの項目が含まれていることから、市長と地区協議会との意見交換会のテーマとしては、なじまないと考えております。

意見交換会は、市民との対話を行い市民参加型の市政を進めるための取り組みでありまして、地区の将来について建設的な意見交換と課題の洗い出しを行うようにテーマを設定しているところでございます。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 今の違いをきちんと地区にも話していただいて、前向きな話し合いになるようにしていただきたいと思います。そこまで考えてるのかなというのがありますので。もっといいものにしていただきたいと思いますと思うんですけども。ことしも7月から始まって10日間、第6次総合計画と地域包括と空き家対策について市から提案するということです。特に空き家対策については地域の人がいろんな情報を持っているので、少しでもいい方向に進めていけばいいと思うんですが、地区協議会にそういう話をする中で、市からいろんな事業を振ってる状況になってると思います。地区協議会は、そもそもは協議体であって事業体ではないというところがあるんですけども、地区協議会がどのような機能をこれからも持っていけばよいと考えているのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 地区協議会がどのような機能を持っていけばいいかということですが、地区協議会の機能については、市民に最も近い位置にあります地区協議会が地区コミュニティを担うことが理想的であるという観点から、これまでさまざまな取り組みやコミュニティビジネスについて提案してまいりました。

今後も引き続き、地区協議会が継続して活動・運営できるよう、人材育成や自主財源の確保などに対して、市としてもバックアップしていきたいと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 地区協議会を町内会が構成してるんですけども、町内会長みんなが協議会に協力的かといえば、必ずしもそうではないこともありますし、協議会から脱退した町内もあります。また、町内から役員を出せずに非常に困っている町内が多いのが実情だということはおわかっていただいていると思います。見守り、自主防災、コミュニティビジネスなど、地区

協議会に役割を与えようとしていますけれども、市と協議会側との考えのギャップがあるんじゃないかなと思います。市と協議会側のギャップについてどのように考えているのか、お尋ねします。

◎議長（工藤和子） 市長。

◎市長（高樋憲） 各地区協議会の方々に財源も持っていただきながら、もしできるのであれば権限も持っていただいて、地域コミュニティを運営していただきたいというのを、一つの大きな目標として取り組ませていただいておりますけれども、ただ、私どもといたしまして、あくまでも一緒にやっという観点でお願いしているわけであり、対応できないような状況の中では、それを強要するわけでは全くありません。あくまでも自主的に私どもの提案に対して賛同し、そして一緒になってそれに取り組んでいけるというものの中で、今後、協議会と一緒に歩んでいければなというふうに考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 新聞にもきょう取り上げられたコミュニティバスですか、ああいうのも、実現に向かって非常にいい結果が出てると思うんですけれども、やはり地区協議会にはそういうのを受け入れる人材、そしてまた思いというか、例えば、NPOは一つの目的を持った人の集まりなんですけれども、地区協議会はそういうところまでいってない部分もあります。市長が言ったように無理強いはしないで、かつ、それを運営する人材を育成していくことによって、そういう事業に取り組めるような形を育てていっていただきたいなと思います。

続きまして、2番目の黒石市立図書館整備推進協議会についてですけれども、1回目が始まって協議会を進めていくということでした。まず、専門家の意見をどのように取り入れるのか、どのような専門家の意見を聞くのかをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 専門家の意見でございますが、懇談会を進めるに当たり、専門家や有識者の意見を取り入れるために、図書館や社会教育の研究者であります大学の准教授にコーディネーターをお願いするほか、青森県立図書館の職員、図書館サービス支援企業の職員、青森県建築士会南黒支部のメンバーにアドバイザーとして懇談会に出席していただき、図書館機能や建築のアドバイスを交えながら、本市にとってふさわしい図書館を検討してまいりたいと思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） やっぱりわからないところもありますし、また、先ほど工藤禎子議員も言いましたけれども、図書館に求める形、機能自体が変わってきてる中で、やはり新しい意見を持った専門家をどんどん取り入れてお話を聞いていただければと思います。

あと、市民の意見をどのように取り入れていこうとしているのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 市民の意見ですけれども、広く市民の意見を聞くために、一般市民を対象としたワークショップを8月と11月の2回、開催する予定でございます。懇談会やワークショップの内容につきましては、随時、市の広報やホームページなどで情報を発信して周知に努めてまいりたいと思っております。

また、基本構想・基本計画の策定時には、パブリックコメントによる意見募集を行う予定となっております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 一般市民とのワークショップということですが、その一般市民を集める方法は、一般公募になるのでしょうか。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） ワークショップにつきましては、公募する予定となっております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 一般公募すると興味のある人が集まってくるのは当たり前なんですけれども、やはり図書館の機能を考えますと、例えば、学生、高校生の勉強するスペース、そしてまた、子育て世代が小さい子供と一緒にいられるスペース、あとは、老人たちの憩いの場所とか、いろんな活用方法を考えていかなければならない中で、やはり世代をきちんと網羅した意見の取り方が必要だと思います。特に高校生とかは、一般公募で来るのかなというところもありますので、広い世代を集める方法について何か、まず検討しないといけないと思うんですけれども、いかがでしょうか。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） ワークショップもそうですけれども、現に懇談会の委員におきましては、教育関係とか文化関係、商工関係、そして福祉関係や大学生も委員として入れております。ワークショップにつきましても、幅広い分野の方から参加していただけるような集め方を検討してまいります。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 市のことに興味を持つ方というと、どちらかというと高齢の方が多かったりする場合があるので、高校とかにもその辺をPRして、何とか高校生にも声をかけていただければよいのかなと思います。

そういった中で、先ほどもありましたけれども、各世代のスペースづくりの図書館をつくる

必要性がこれからあると思うんですけれども、その辺の見解をお願いいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 図書館は、生涯学習と社会教育による人づくりの拠点であり、豊かな読書環境と学習環境の確保、そして、地域情報の発信により市民の教養を高め、生活文化の向上を図ることができます。本市の図書館としては、読書・学習環境を確保する「学びの図書館」、人々が集い中心市街地活性化につながる「賑わいの図書館」、コミュニティを維持し、人口減少社会に対応する「市民の力を育む図書館」などが考えられます。その中で各世代のスペースづくりとしまして、例えば、若者向けの学習スペース、子供やその親が集まることのできるスペース、高齢者向けの憩いのスペースなど、議員がおっしゃるとおり、世代ごとの居場所づくりを行うとともに、コーヒーや会話が楽しめる飲食スペースとか、無料Wi-Fiの設置とか、市民が望む機能や利便性の高い図書館づくりについて、懇談会やワークショップの中で検討してまいりたいと思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） あと、既存施設との連携というのがちょっとありましたし、私も前回発言させていただきましても、それをどのように考えているのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 既存施設としまして、隣接する黒石公民館の多目的ホールやスポーツ交流センターの各施設と連携し、複合施設として多様な事業展開を図ることを検討してまいります。

例えば、健康教室において、図書館で座学を行った後にスポーツ交流センターで実技を行う事業とか、多目的ホールにてボランティアの方々とともに古本市を開催したり、御幸公園でねぶたの合同運行が行われるのに合わせて祭りの歴史を紹介する展示を行うことなどが考えられます。

また、予約なしで利用できる図書館及び館内のフリースペースがあれば、多目的ホールやスポーツ交流センターの利用者にとりまして、待ち合わせや打ち合わせの場所として活用でき、互いに相乗効果を生むことが可能となっていくと思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） やはりそういう取り組みが絶対に必要というか、面積の制限があるようなので、そういった考え方を積極的にしていっていただければと思います。特に多目的ホールの前のスペースとか、展示スペースなどの広いスペースとかがありますので、あの辺ももっとも有効に活用できるはずですので、積極的に取り入れながら、入り口を連携させるとか、雨に当たらないで移動できるようにするとか、その辺も考えて工夫していく必要があるのではない

いかなと思います。

私たち新自民・公明クラブも、早速来月、行政視察で多賀城市立図書館と大崎市図書館を視察してまいります。よい情報があればお伝えしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

それでは3番目の、適正配置後の登下校についての通学路についてです。これは、皆さんからいろんな意見がありましたし、細かいことを言えば、例えば、黒石小学校から新黒石小学校に行くには、今まではこう行ってこう行ってこう行ったらここに信号機があって、さっき言った横断歩道がこっちとこっちにしかなくてこっちにないとか、細かいことは、いろいろ見れば問題点はまだまだあると思いますので、そういったところに対応していただければと思います。

小学生の通学の距離がふえるという状況がある中で、交通指導員といますか、例えば黒石小学校は、緑のおばさんをPTAでお願いしていますし、また、黒石東小学校とかいろんなところで、地域のボランティアの皆さんたちが子供たちの安全のために協力しているわけですが、その辺についての対応はどのように考えているのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 交通指導員等の対応についてお答えいたします。

現在、黒石小学校では、PTAの御配慮による交通指導員の配置、また、黒石東小学校では、東地区連絡協議会の交通防犯部の御協力により、見守り・交通指導が行われており、学校・教育委員会としても、大変ありがたく思っております。

統合後においても、登下校時の児童の安全確保のためには、このような地域の皆様方の活動が不可欠であると認識しておりますので、引き続きの御協力をお願いしてまいります。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） ルートも若干変わったりするところもありますので、その辺、きめ細やかに対応して、見守る体制をつくっていただければと思いますので、よろしく願いいたします。そういう人員の配置をPTAや地区協議会と協議して進めていっていただきたいと思います。

次、スクールバスについてですけれども、スクールバスについての課題と対策はどういうものがあるか、質問いたします。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） スクールバス運行の課題と対策についてお答えいたします。

黒石東小学校周辺の道路は幅員が狭いことから、児童の安全確保のため、学校裏門を拡幅す

ることでスクールバス専用の乗り入れ場所を確保し、徒歩で通学する児童との動線を分離することとします。

また、スクールバスのルート等、その内容に関しては、統合準備委員会の場や学校新聞などでお知らせしていますが、6月24日、今週の月曜日からですが、保護者を対象とした説明会を小学校区ごとに開催しており、その中で出された御意見・御要望に関して対応可能なものについては、前向きに対応していきたいと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 説明会もこれからだということで、実際に自分の子供がどうなるのか、まだ理解していない親もいるのが現状ですけれども、私からは1点、各児童館への帰りのスクールバスの対応はどのようになるのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 児童館のスクールバスの対応についてお答えします。

通学距離が2キロメートルに満たない児童は、原則スクールバスの利用対象となりませんが、例えば、登校時に学校までの距離が2キロメートル未満であっても、りんごクラブ利用児童であって、学校からその場所までの距離が2キロメートル以上となる児童については、バスに乗れるように対応していく考えであります。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） その場所が2キロメートルというのは、児童館の場所が2キロメートルという意味ですよ。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◎7番（大溝雅昭） それを前提に。ということは、2キロメートル以内にある児童館に行くには、必ずバスは通るわけですから同じところに行くのに、バスに乗れる子供と乗れない子供が出るという考え方でよろしいのでしょうか。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 2キロメートルという線引きはしてはありますが、このりんごクラブ利用の児童に関しては、今後、担当と情報共有しながら、対応について協議していきたいと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 私はお願いしたい立場ですので。同じ場所に行くのにバスに乗れない子供と乗れる子供がいるのはやっぱりおかしいですし、児童館に行くのは大体が低学年ですので、低学年の中でそういうのが起こる。それは、交通事故等に対する対策としてもよくないので、その辺、可能であれば乗せていけるような方法を考えていただきたいと思います。くれぐれも、

不公平になるのでみんな乗せなければいいというような極端な話にならないように、何とか対応をお願いしたいと思います。

続きまして、スポーツ推進活動についてですけれども、スポーツ施設は、雪国だと特に冬場の確保が非常に大変で、弘前市では抽選でそういうことをやって、すごく倍率が高くなっているのが現状です。今、適正配置で廃校や閉校した学校をスポーツ施設として利用する考えはないのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 廃校等をスポーツ施設として利用する考えはあるかについてですけれども、廃校となっている空き校舎は、市の貴重な財産であると認識しております。今後の利活用に関しては、スポーツ施設としての利用が可能かどうかも含めて、関係機関と協議しながら進めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） この件について、スポーツ施設を確保するような回答がなかなか出てこないのが現状ですけれども、きのうの答弁にもちょっとあったように、六郷中学校・東英中学校が今どうなっているかという、地域で利用しようという声があれば売却するという考え方なので、行政財産になってしまうと、お金がない黒石市は、利用することよりも売ろうとすることを考えているような気がいたします。行政財産になる前にスポーツ施設や公民館としての利用を、まずは可能かどうか、きちんと考えていただきたいということです。

教育委員会と総務部が、特に今の適正配置後の校舎については、どっちが担当かがわからないような状態になって、話がなかなか進んでいないというふうに聞いております。例えばスポーツ施設としての利用を考えるのであれば、文化スポーツ課なりが間に入って利用計画を立ててみるとか、そういったシステムをつくっていただければなと思っております。何でも市であればいいと言っているのではありません。管理を委託できる団体もたくさんあるように考えます。弘前市では、体育協会のほかにもリベロ津軽スポーツクラブやスポネット弘前等もあります。黒石市にもそういった団体を育てたりするのもスポーツの振興の一つだというふうに考えておりますが、そういった方向性をお願いしたいということですので、見解があればお伺いいたします。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 今後、関係機関と協議しながら進めていきたいと思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 国民スポーツ大会の視察があったということですので、その中で問題

点と対策についてお伺いいたします。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 問題点と対策ですけれども、まず問題点は、競技会場となるスポカルイン黒石アリーナの照度が国民体育大会競技施設基準を満たしていないこと。また、コートマットの整備等があります。

これらについては、今後、青森県及び青森県バドミントン協会と協議しながら対応してまいります。以上です。

◎議長（工藤和子） 大溝議員に申し上げます。残り時間約8分となりましたので、御協力をお願いいたします。7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 実は、バドミントンのマットは非常に高価なもので、それが何枚も必要だと聞きました。その辺、国民スポーツ大会に向けての対応をきちんとお願いしたい。また、照度のほうもお金がかかることですので、頭を使いながらやっていただきたいと思います。

あと、市の職員の採用についてですけれども、時間がないので少しまとめて聞きますが、広く人材を採用する方法が変わったと。それはすごくいいことだと思っておりますけれども、たしか前に質問した議員がおりましたが、それによって職員の市民の割合が低下する懸念があるのではないかと思うのですけれども、その辺について、今後の見通しをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 採用方法の変更により、市内居住者の割合が低下するのではという御質問でございますけれども、今回の採用試験の制度改正は、黒石市に居住する受験者や県外に居住する黒石市出身者も含め、多くの優秀な受験者を広く募集することを目的とした改正であります。

市内居住者の受験状況は、一般行政職の上級の受験者数で比較してみますと、導入前の平成29年度は18人、SPI3試験を導入した平成30年度は19人、今年度は28人と、導入後は増加している結果となっています。また、SPI3試験導入後に採用された職員12人のうち、10人は市内に居住しているという結果となっております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） やはり地元愛というか地元の職員もふやしていただきたいと思いますので、黒石市卒とか地域卒とかも、もし考えられるなら取り組んでいただきたいと思います。これはここまでにしておいて、次、カットのほうにいきたいと思います。

カットのトータルの金額は、結果的に幾らになっているのか、どのような使われ方をしているのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 職員の給与削減の総額でございますが、平成16年度から始めた職員の給与削減措置の総額は、平成30年度までの15年間で約13億1000万円となっております。

なお、削減された給与の使われ方でございますが、財政健全化のために歳出抑制を図ったものであり、使われ方を特定することはできないですけれども、各年度の各種事業の一般財源として活用され、黒石市民のための施策を推進するための貴重な財源として有効に活用されてきております。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 長年カットして、カットが当たり前のようになっているような気がいたします。いつまでカットするのか、現在、部長級で6%、今までの緩和の例では年に1%ずつです。ゼロになるのはまだ6年もかかるのか、そういったカットに対する計画性はあるのか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 職員の給料削減措置につきましては、これまでも毎年度、当初予算編成時に各年度の財政状況を総合的に判断し、削減について決定してきております。

今後、令和2年度以降の給料削減措置につきましても、当初予算編成時に財政状況を十分に熟慮した上で判断したいと考えてございます。以上です。

◎議長（工藤和子） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） カットも毎年で、いつまでもわからないということもありますし、使われ方も、例えばこれに使っているんだよというのがあれば、また気持ちも違うと思うんですけども、職員のモチベーションが上がるのか——特にこの人材不足、少子高齢化、先ほど言った働き方改革の中で、給料を上げる話があっても下げるのは時代とマッチしていないというか、逆に錯誤のような気もいたしますので、給与カットについては、早急に対策を練るようにしていただきたい。それも、計画性があるようでない対応の仕方がちょっと疑問もありますので、その辺、時間もないのでお願いしたいということです。もう時間ですよね。以上で質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（工藤和子） 以上で、7番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和子） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時51分 休憩

午後 1時01分 開議

◎議長（工藤和子） 休憩前に引き続き会議を開きます。

8番佐々木隆議員の登壇を求めます。8番佐々木隆議員。

登壇

◎8番（佐々木隆） 黒石市民倶楽部の佐々木隆です。

令和元年、改選後、初めての定例会において一般質問できることを大変光栄に思い、今後も黒石市の発展、市民の安心・安全のために働いていく所存でありますので、よろしくお願いたします。

それでは、通告に従い一般質問をさせていただきます。

初めに、市長のトップセールスについてお尋ねいたします。

市長は就任以来、市の発展のためにさまざまな事業を展開し、また、観光振興や物産振興のためにも、いろんな場所へ出向き、PRをされてきたことと思います。観光や農産物で地域の活性化や振興を図る上で最も大切なことは、いかにして市外あるいは県外の方々に、この黒石市を認知してもらい、来ていただくかではないでしょうか。もちろん、観光施設や祭りを訪れる地元の皆様も大切なお客様に変わりはありませんが、地元のお客様だけに視線を向けた施策を展開していても、市全体としての観光振興や地域活性化へのつながりは弱いものと考えられます。そういった意味からも、セールスは県内外に広く、そして、小まめに足を運びながらこの黒石市をPRし、誘客、あるいは農産物の販売促進など、地域の活性化につなげていかなければならないと思います。

そこで、市長のトップセールスの実績をお知らせください。

次に、浅瀬石川の環境整備についてお尋ねします。この質問は何度か質問しておりますが、なかなか前進していかないと思われますので、取り上げた次第であります。

近年、全国各地において、集中豪雨やゲリラ豪雨が発生し、甚大な被害を及ぼしております。当市においても、昭和50年8月に津軽一円に集中豪雨が発生し、中野川・十川・浅瀬石川の堤防が決壊するなど、市の当時の被害額は44億7200万円を超えております。また、2年後の昭和52年に再び豪雨が発生し、死者・行方不明者2名が出たほか、中弘南黒地方の被害額は235億3000万円と甚大な被害がありました。

そのようなことから、県の事業で浅瀬石川の改修工事が行われ、その後は大きな災害もなく現在に至っております。

ことしも浅瀬石川クリーンの会は、今月9日の早朝、第28回浅瀬石川クリーン運動を市内各地で開き、多くの市民が参加し、土手の草刈りやごみ拾いなどに汗を流した活動が認められ、ことし、県の第11回ふるさとあおもり景観賞地域づくり活動部門で最優秀賞を受賞され、今後、さらに意欲が湧いたことと思われます。

しかし、近年は雑木も多く目立ち、中州にも木が生え、今後、災害につながらなければと思

うところであります。

そこでお尋ねしますが、市では、県に対してどのような働きをしているのか、そして、どのような事業が進められているのか、お知らせください。

また、私たちが子供のころは、浅瀬石川でよく水浴びやニジマス、アユなどの魚釣りをしたものでありますが、近年は水難事故などで、川で遊んでいる子供たちも見かけることがありません。魚釣りをしている方も少なくなったと思います。

そこでお尋ねします。近年、下水道工事や合併処理浄化槽の普及などで浅瀬石川の水も大変きれいになっていることと思いますが、浅瀬石川の水質の検査や分析をしたことがあるのか、お知らせください。

最後に、小・中学校適正配置後についてお尋ねいたします。

来年4月に新設黒石小学校、新設黒石東小学校の統合で適正配置も終わりますが、今後、統合してよかったと保護者からも子供たちからも言われるように、さまざまな課題を乗り越え、統合されることを期待し、協力してまいりたいと思っております。

そこでお尋ねいたします。上十川小学校で行われていた獅子踊りは、六郷小学校と統合後、どのようになったのか、お知らせください。

また、浅瀬石小学校の相撲大会は、今後、どのようになっていくのか、お知らせください。

最後に、この質問は3月議会の予算委員会でも申し上げましたが、統廃合により、教職員の方がどこに配置になるのか、統合された学校へ配置されて教員数をふやすことができないのか、充実した授業ができないのかをお尋ねします。

簡単ではございますが、以上で壇上からの質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎議長（工藤和子） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 佐々木隆議員にお答えいたします。私からは、市長のトップセールスについて答弁させていただきます。

市では、安全・安心で優れた本市の農産物と物産の情報発信及びその販路拡大を図るために、首都圏の市場や物産展でのトップセールスを展開しております。

昨年度の実績といたしましては、10月に東京都江戸川区にあるイトーヨーカドーアリオ葛西店で開催されました青森県フェアに黒石市ブースを出店し、トップセールスによる市産品のPRを行いました。津軽三味線の生演奏やにゃんごすたーのステージパフォーマンスをあわせて実施するなど、多くの来場者の方々へ本市の農産物や物産のこだわりと魅力を積極的にPRした結果、出品いたしました早生ふじやときなどの黒石産りんご、南黒お米クラブが生産しまし

たつがるロマンなどの農産物は、来場者から好評を博したほか、ポタージュスープやりんごジャムなどの加工品は、ほぼ完売いたしました。また、その際においでいただきましたにゃんごすたーのファンの方が、ことしの黒石さくらまつりにも足を運んでいただいて、大変、私としてはうれしく感じているところであります。

また、ことし2月には、上十川りんご支会とともに東京神田青果市場と地元スーパーを訪問しまして、高品質な農産物を生産できる本市の強みをPRし、黒石産りんごのさらなる販路拡大を図るため、市場関係者やバイヤーの方々との情報交換会も実施させていただいております。

次に、企業誘致に関するトップセールスの実績でありますけれども、現在、市内に立地しております誘致企業本社を訪問いたしまして、引き続き事業を展開していただくためのトップセールス活動を行っております。

昨年度は、県外3社を訪問し、本社取締役社長などと企業の現状や動向、市の各種施策などの情報交換を行っております。今後も定期的に意見交換する場を設けるなど、効果的な対策を続けていくことで、事業の拡張や設備投資による雇用の拡大と税収の確保につなげてまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（工藤和子） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 私からは、浅瀬石川の環境整備についての、中州の整備についてと水質の管理について答弁させていただきます。

議員がおっしゃるとおり、浅瀬石川の整備・維持管理については青森県が行っておりますが、中州の整備については、毎年、中南地域県民局地域整備部に市から強く要望しており、平成30年度は浅瀬石橋、浅瀬石に行く橋の上下流の延長約300メートルについて実施され、今年度も継続で延長約300メートルを予定しているということでした。市側としては、浅瀬石川クリーンの会による草刈りやごみ拾いのほか、中南地域県民局から貸与されております乗用型草刈機等による草刈りなどを、河川敷について実施しております。

次に、水質管理については、青森県で毎年観測しておりまして、市内の観測地点では、環境基準を超える数値は出ていないということでした。私からは以上です。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 私からは、小・中学校適正配置後についてのア、地区行事の今後について、適正配置後、上十川地区の上十川獅子踊りや浅瀬石地区の羽黒神社奉納浅瀬石地区子ども会相撲大会は学校行事であったが、今後はどう考えるのかについてお答えいたします。

上十川獅子踊につきましては、昨年度から上十川獅子踊保存会が六郷小学校や保護者に対し、小学生で構成する「子ども組」の活動に理解を求める働きかけを行っており、伝統芸能の保存活動に取り組んでいると伺っております。

次に、羽黒神社奉納相撲大会につきましては、主催する浅瀬石地区子ども会育成会が、3年前から試験的に羽黒神社の大祭日に合わせず日曜日に開催しており、出場する子供たちに加え多数の保護者の協力があり、盛り上がりを見せていると伺っております。

教育委員会といたしましては、各地区において学校適正配置を見据え、さまざまな行事に工夫を凝らしながら活動に取り組む動きであることから、現段階では問題はないと捉えております。

次に、イの教職員の配置について、小学校教職員の充実した配置ができないかについてお答えいたします。

小学校にかかわらず、公立小・中学校の教職員の配置基準については、青森県教育委員会が定める学級編成基準の規程により、学校の学級数に応じて教職員数が決められております。同様に、養護教諭や事務職員等についても一定の基準が定められていることから、市内小学校の教職員がその基準を超えて増員になることはありません。

なお、現在も活用している制度で、学級編成基準による配置基準以外にも、学校の統合が行われた場合や指導方法の工夫改善に積極的に取り組む学校に対し、学級数や児童・生徒数を勘案し、別途教職員が配置される加配という制度がありますので、今後ともこのような制度を積極的に活用しながら、本市の学校教育のさらなる充実を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（工藤和子） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和子） 8番佐々木隆議員の再質問を許します。8番佐々木隆議員。

◎8番（佐々木隆） 答弁ありがとうございました。

初めに市長のトップセールスですけれども、市長がかなり中央のほうへ足を運んでセールスをされているなど、大変感心し、これからも期待するところでございます。

そこで、市長を初め農協組合長、担当課の人たちも行っていると思うんですけれども、これに議長も、そしてまた議員にも声をかけて、みんなでイトーヨーカドーでしたか、みんなではんてんを着て、黒石の物産、祭り、イベントなんかも紹介できればなというふうに思っております。今後、金がかかるのであれば別として、議員一人一人が自己負担でも行けるといような声かけがあれば、私たちも同行したいと思っておりますので、その辺をどのように考えているのか、お聞かせください。

それと、東京黒石会の活用ですけれども、私も何回か東京黒石会にお邪魔しておりますが、行って、総会やって、すぐ会食になるんですけれども、せっかく来た東京黒石会の人たちと、ゆっくり話をする時間が少ないといつも感じています。これは、東京黒石会が主催するわけですけれども、当市からも、総会前に役員の方にでも時間をとってもらって、会場で1時間くらいでも、いろんな情報交換できればなど、つくづく思っております。

東京黒石会のメンバーの皆さんは、中央に出て、いろんな場面で成功された方が多数いると思います。大変いい集まりと考えますので、こちらから提案するのちょっと変でしょうけれども、そういう機会があればなどと思いますので、その辺のお考えもお知らせください。

浅瀬石川の整備についてでありますけれども、毎年県では工事が進められているということですが、浅瀬石川の千年の大橋を通過して、また、追子野木の千年橋を通過して市内に入ってくる、いわゆる市の玄関口になるわけですが、中州の木や草がすごく目につきます。せっかく高速道路からお入り市内に入るとき、ああいう見栄えの悪いのが一番目につくのが非常に残念に思うわけありますので、県にもっともっと要望して、見えるところから手をかけてもらえればなど思っております。

壇上でも申し上げましたけれども、我々が小さいときは浅瀬石川でよく遊んだもので、多分水質もよかったと思います。今も多分、黒石市の水質はよいと思っておりますので、京都の嵐山みたいな、すごくきれいな川になって、そこに釣り人が来て、ゆっくりあの辺を散策して、黒石の温泉に入っていくという。そういう環境ができればすごくいいのかなと思いますので、もっともっと県に問いかけてほしいと思いますので、要望として申し上げたいと思います。

小・中学校適正配置についてですが、上十川の獅子踊りですけれども、旧上十川小学校の保護者の方々からもいろいろ聞いてたんですが、六郷小学校になって獅子踊りが復活できてないという声がありましたので、今回、質問した次第です。

上十川獅子踊保存会が一生懸命やっているということですから、上十川小学校でなく、統廃合して六郷小学校になったわけですが、六郷小学校全体が郷土の文化である獅子踊りにもっと興味を持って子供たちがやれば、守られていく郷土の文化になるのかなと思っておりますので、子供たちが獅子踊りを披露できる場所、例えば六郷小学校の中で何かの機会に披露するとか、そのようなことを今後考えてほしいと思います。教育長は上十川小学校の校長でもありましたし、当時、獅子踊りもやってきたと思いますので、教育長の考えがありましたらお聞かせいただきたいと思っております。

そして最後に、教職員の加配ですけれども、統合してよかったと言えるような学校になればと思いますので、県教育委員会にももっともっと働きかけて、教職員をうまく配置できることを期待したいと思います。これについても考えがありましたら答弁をお願いしたいと思います。

す。以上です。

◎議長（工藤和子） 市長。

◎市長（高樋憲） 佐々木議員からトップセールスについて、議員も一緒に行けばという、大変ありがたいお言葉をいただきまして、心強く感じております。

ただ、私どもとしては、本当は皆さん全員一緒に行っていただきたいんですけども、経費がかかるものがあり、なかなか財政的な部分でそこが見れないという心苦しさもありますが、先ほど佐々木議員から、もし機会があれば自費でも行ってもいいという、大変ありがたいお言葉をいただきましたので、今後は、トップセールスの機会と場所の情報を、我々から積極的に議会事務局にもお知らせし、議員の皆様方に伝達していただくように、今後とも努めていきたいと考えていましたので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、東京黒石会の方との懇談のお話がありましたけれども、私は、本当に東京黒石会の方々には、足を向けて寝られなくらい感謝しております。いろんな場面に応援していただいています。正月2日から六本木ヒルズで行われるずぐり回し大会にも、東京黒石会の役員の方がボランティアで来ていただいて、りんごを配布したり協力いただいたりしてますし、また、先ほどの答弁でもありましたけれども、イトーヨーカドーアリオ葛西店にりんごを置いていただきましたし、先般の上十川りんご支会の方々とのスーパー視察の際にも、わざわざ足を運んで応援して、頑張れというふうに激励をいただいたり、本当にありがたい限りであります。

東京黒石会の方々とは、私自身が1期目のときにも、観光大使の方々を中心とした意見交換会の場を設けさせていただいたわけですが、昨年度もその延長線で、中野の東北復興祭の際に、観光大使の方々と東京黒石会の幹部の方々との意見交換させていただいたんですが、その際にうまく情報が伝わらなくて、東京黒石会の方に本当は一人でも多く参加していただきたいんですけども、それがうまくかなわなかったのも事実であって、大変残念でした。今後は総会とか、あるいは私自身がトップセールス等で上京した際でも、時間がうまく東京黒石会の方々合うのであれば、情報交換の場を設けて、今後一緒に黒石のPR、また、地場産品の販路拡大等にも一緒に努めていきたいと考えてましたので、積極的に東京黒石会の方々に情報提供をし、情報交換をできる場を設けていきたいというふうに考えてます。以上です。

◎議長（工藤和子） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 浅瀬石川の関係ですけども、中州に関しては、どうしても河川の維持管理事業となりまして、青森県の単独事業で行っているのが現状です。単独事業も限られた予算で中南管内の全ての河川の維持・管理を実施しているということが現実としてありますけれども、議員もおっしゃったように、今後とも市としては強く要望していきたいと考えております。

以上です。

◎議長（工藤和子） 教育長。

◎教育長（山内孝行） 私からは、獅子踊りの件と教員の加配についてお答えいたします。

まず、獅子踊りの件ですけれども、上十川獅子踊保存会では、六郷小学校に対しまして学習発表会などで披露できないか、要望しております。現在、小学校で検討しているという実態です。

また、あわせて、現在の六郷小学校の校長は、かつて上十川小学校の教頭を経験したことがありますので、地元の伝統とか郷土愛に対しては大変理解のある方だと感じております。したがって、教育委員会といたしましても、今後も広くPRし、披露できる場所の提供等に努めていきたいというふうに考えております。

次に、適正配置の教員の増員の配置でございますが、これから中南教育事務所との人事の交渉が始まりますので、できる限り、黒石市としての要望を強く求めて、教員の加配の充実に努めてまいりたいと思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 以上で、8番佐々木隆議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和子） 次に、13番中田博文議員の登壇を求めます。13番中田博文議員。

登壇

◎13番（中田博文） 令和元年6月定例会に当たり一般質問をさせていただきます、新自民・公明クラブの中田博文でございます。

4月の市議会議員選挙では10回目の当選をさせていただき、市民の方々に心から感謝を申し上げます。初当選のときの気持ちを忘れることなく、市民の負託に応えられるよう努力していかなければと、心を新たにしているところであります。

選挙中、市民からの要望ですが、「東公民館を見に来てほしい」、「主要幹線道路に名称をつけるように行政に働きかけをしてほしい」、「東地区内の町内の道路が傷んでいるので見に来てほしい」、「家の前の側溝が傷んでいる、役所に頼んでも回答がない」、「図書館を早く建ててほしい」、「市議会議員の数をもっと減らすべきである」とのこと。「地区要望は速やかに対応してほしい」、また、「小・中学校の数が減少したので、学校近辺に子供たちの安全のための防犯システムの設置を考えてほしい」ということであります。今回、何項目か取り上げておりますので、よろしく願いいたします。

最初の質問は、財政についてであります。

1つ目は、平成30年度決算見込みです。当市の財政は、20年前、普通会計・特別会計等を合わせて約453億円の借金で、最悪でした。現在は約223億円。借金返済の公債費が最高のときは

年間36億円、ことしは15億円。半分以下になったのであります。平成30年度決算については、5月31日をもって出納閉鎖です。よって、見込みで結構ですので、決算の内容と起債残高、公債費比率、財政調整基金はどのように推移しているのか、そしてまた、財政計画上、どのような状況になるのか、お尋ねいたします。

2つ目は、今後の財政の見通しです。黒石小学校の建設費が25億円。これに対し、地方債は13億円。それから、黒石東小学校の厨房の増築費、さらには3分の1の補助がつく図書館新築、旧大黒デパートの解体費も地方債。借金が伴うのは、至極当たり前です。当市の今後の財政計画の見通しについての見解を求めるものであります。

2番目は、旧大黒デパート解体についてです。

ことしは解体のための基本計画と基本設計となっており、解体設計業務委託が1188万円で落札。懸案の課題解決第一歩と報道されておりました。しかし、予想以上にアスベストが多いということで、予定通り進まないとのこと。解体に関し、今後どのように進められていくのか、お尋ねいたします。

3番目は、市立図書館建設についてです。この件は私で4人目。県内10市で唯一図書館がない黒石市です。50年以上市民の待望・悲願であった図書館。歴代の市長がなし得なかった図書館建設。高樋憲市長には拍手喝采であります。しかし、中には、お金もないのに今さらという市民もいることも忘れないでほしいと思います。よって、市民に喜ばれる図書館をつくっていただきたいと存じます。規模・金額をどのように考えているのか、お尋ねいたします。

次は、教育行政についてです。

1つ目は、東公民館の現況についてです。先般、改めて公民館にお邪魔いたしました。事務室は古ぼけている、隣の2つの部屋は物置にしか見えない、スリッパをはくにも靴下のまま入らなければいけない、玄関から「ごめんください」と言っても事務室には聞こえない。活発な活動をしている地区に対し、お粗末でかわいそうだと思います。近い将来、改修とか改築を進めなければならないと思います。この件に関して、担当課の見解はであります。

2つ目は、黒石東小学校の給食実施についてです。

やっとのことで厨房の建設が進むわけですが、建物の完成が年度内ぎりぎり。工期は大丈夫なのか。

2点目は、ランチルームがないので、各教室で食べるのであれば、配膳とか、練習や準備は大丈夫なのかであります。

3点目は、アレルギー体質の子供のために自校式にしたと聞いております。具体策はどのようなになってるのかであります。

最後は、地産地消はどのようになるのか、お尋ねいたします。

5番目は、黒石コミュニティファーム事業についてです。

当市は、市民農園開設により、3世代交流の触れ合いの場を創出することで地域住民のニーズに対応し、コミュニティの形成に寄与するという名目があります。初年度のことしは、関心が薄いのかと思います。しかし、ほのぼのとした事業だと、私は喜んでいる一人であります。この事業の募集状況、現在の農園の活用状況と、来年はどのように考えているのか、お尋ねいたします。

6番目は、特産果樹ブランド化推進事業についてです。りんご、米、高冷地野菜に続く農産物の振興策として、シャインマスカットの展示圃を設置し、栽培者を募るとのことで、働く場の提供と高収益農産物の普及・拡大を図っております。まず、初年度のことしの公募は、どのようになったのかであります。

7番目は、花のみちクリーン運動についてです。

6月8日の朝6時ころに電話が鳴り、お話をしたところ、中部地区の役員で、今、中郷中学校の裏のほうで、花のみちのシバザクラの雑草を取っているから見に来てほしいということがありました。私も草取りの道具を持って行きました。中部地区の方々は15名から20名ぐらいおられました。年々参加者が減ってきて活気がなくなっている。このまま続けていいのか、続けるのであれば、もっと参加者をふやす手段を講ずるか、見通しが見つからないのであれば約18年続いたが終わりとするのか、担当課に聞いてほしいということでしたので、担当課の見解はいかにであります。

8番目は、市内幹線道路の名称についてです。

市内の飲食店経営者から、市外のお客さんが、「お宅の店に行きたいが、どのようにして行けばよいのか」という問い合わせがあり、「黒石駅はわかりますか、スポカルイン黒石はわかりますか」と聞いてもわからなかったそうです。私の経験上、東京の繁華街に行くと、店名を言ってもわからないが、何々通りとか、通りの名称を言うと教えてくれます。当市も市外の人のために名称をつけてはいかがでしょうか。まずは黒石駅から八間道路の路線、もう一つはスポカルイン黒石から御幸公園までの2本を考えていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

最後の質問は、選挙立候補の届け出についての、提出書類についてです。

まず言わせていただくなれば、初めての人間からすると、まわりくどい、同じようなものもあり要約できないのか、もっと簡単な様式に変えることができないのかです。中には、どちらでもよいとかとなると、逆にどちらにすればいいのか困惑する。記載例の書面をいただいているが、意味がわからない。記載例に対して疑問を抱く箇所もあり、意味がわからなければ記載例の意味がない。記載例に対し、担当に質問をすること自体がアウトだと思います。

そこでお尋ねいたします。提出書類は当市独自のものをつくることはできないのか。できないのであれば、記載例はもっと明解な、職員の方々がわかるのではなく、凡人でもわかるような記載例をつくっていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

以上で、壇上からの一般質問を終わります。御清聴、まことにありがとうございました。

(拍手)

降 壇

◎議長（工藤和子） 理事者の答弁を求めます。市長。

登 壇

◎市長（高樋憲） 中田博文議員にお答えいたします。私からは、財政について答弁させていただきます。

まず、平成30年度決算見込みでの一般会計、特別会計、企業会計を合わせた市全体の起債残高ですけれども、約220億円であります。

次に、実質公債費比率ですが、18%台となる予定で、変更はありません。

次に、財政調整基金残高の見込みは、約9億9600万円であります。

次に、過去3年間の推移ですけれども、起債残高は、平成27年度末で約270億円、平成28年度末で約249億円、平成29年度末で約233億円となっております。

実質公債費比率は、平成27年度末で22.4%、平成28年度末で22.0%、平成29年度末で20.1%であります。

財政調整基金残高は、平成27年度末で約5億9200万円、平成28年度末で約8億2500万円、平成29年度末で約9億5600万円となっております。

今後の見通しについてですけれども、令和元年度の決算見込みにつきましては、市全体の起債残高は約222億円となっており、平成30年度決算より増加し、財政調整基金残高は約8億円まで減少する見込みですが、実質公債費比率は18%未満となる見込みであります。

令和2年度以降も、市立図書館の整備や旧大黒デパート施設の解体、市庁舎の耐震対応など、財政的な課題もありますけれども、持続可能な事業規模と、そしてまた有利な起債をフルに活用しながら、実質公債費比率18%未満を維持するため、歳入確保に努め、健全な財政運営を実施してまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 私からは、旧大黒デパートの解体について答弁させていただきます。

平成30年度に実施した旧大黒デパートアスベスト等調査業務委託の結果報告により、外壁塗材と鉄骨の吹付材にアスベストの含有が判明しております。

今年度発注しました解体設計業務委託により、本年10月中旬をめぐりに解体工事費、解体工程等の検討を終え、令和2年度から解体工事に着手する予定であります。以上です。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 私からは、市立図書館建設について答弁させていただきます。

現在、市が試算している図書館の規模ですが、敷地面積が約1400平方メートルに対して、延べ床面積が約1500平方メートル前後となることを想定しております。

この建設規模ですが、市の財政状況や他市町村の事例などを参考に、おおよその目安としたものです。今後、図書館整備推進懇談会や市民ワークショップで市民の意見を伺いながら、必要となる機能やサービス、景観にマッチしたデザイン等の議論を踏まえた上で、最終的な規模や形状、建設事業費を決定していくものと考えております。

図書館整備につきましては、市の財政状況や将来人口などを勘案しつつ、できるだけ有利な財源を選択して、当市にふさわしい図書館、市民の皆さんに喜んでいただけるような図書館となるように検討を進めてまいります。以上です。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 私からは、黒石コミュニティファーム事業、黒石特産果樹ブランド化推進事業、黒石花のみちクリーン運動について、3件の答弁をさせていただきます。

まず、黒石コミュニティファーム事業についてでございます。募集状況、利用状況、そして今後の拡充に向けた方策についてです。

市民農園開設による黒石コミュニティファーム事業につきましては、募集状況を考慮し、当初の計画を1区画上回る21区画を開設いたしました。

現在、市民や社会福祉施設利用者の方々が、自家用野菜や草花などの栽培を通じて、自然との触れ合いや農産物をつくり育てる喜びを味わうなど、余暇の楽しみの創出と食農教育の推進、新たなコミュニティを形成する場として利用されております。市民農園の開設に当たっては、利用者の方が楽しく農作業体験できるように、中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室黒石分室の方々にも御協力をいただき、栽培管理における相談体制を構築するなどの工夫をしています。

今後は、より一層の充実感の向上を図るため、コミュニティ形成を目的とした、利用者みずからを中心に収穫感謝祭を開催する予定としているほか、実際に利用してみた感想、要望等についてアンケート調査を行い事業に反映させることで、利用者の増加につなげていきたいと考えております。

次に、黒石特産果樹ブランド化推進事業についてです。事業内容と取り組み状況についてお

答えします。

この事業は、シャインマスカットを高収益農産物の重点作物として位置づけ、技術確立と早期普及による農業所得の向上を図ることを目的に、展示実証圃を設置することとしたものです。

事業実施に当たっては、公募を行い、応募者の中から将来性のある若手農業者1名を決定し、先進農業者の技術指導を受けながら、トマト栽培との複合経営に取り組んでおります。

展示実証圃は、旧農林総合研究センターにある圃場に約1500平方メートルの規模で設置し、さまざまな栽培技術を学ぶことを目的に、露地栽培用に16本、ハウス栽培用に3本の計19本の苗木を植栽しております。

シャインマスカットは3年目以降に収穫可能となり、成木時には10アール当たり150万円程度の所得確保が早期に実現できるものであり、栽培時期に応じた管理と技術を学ぶ研修会の場として活用することで、高収益農産物の生産技術確立と普及拡大を図っていきたいと考えております。

次に、黒石花のみちクリーン運動についてです。環境整備と今後のあり方についてです。

「黒石花のみち」は、平成18年度に農道田中線の沿線に当たる中部、西部、北の3地区協議会を中心に組織された黒石花のみち運営委員会が主体となって、美しい田園風景をつくるために、歩道の植え込みにシバザクラを植栽したものです。

現在は、中部地区振興協議会と西部地区連絡協議会が、植え込みの草刈りなど、クリーン運動を毎年継続しており、田園地帯の景観が地域のボランティアによって守られていることは、まさに黒石力のあらわれであると思っております。

一方、地域活動への参加者の減少傾向につきましては、全般的に見られております。黒石花のみちクリーン運動においても同様の課題であると捉えております。

市としては、当運動に対して意欲的に活動を実施・継続できるよう、より効果的なPR方法により、参加される方の意欲の向上、負担軽減策等について、地区協議会と話し合いを進めていきたいと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 私からは、市内幹線道路の名称について答弁させていただきます。

市が維持管理をする道路については、その路線が位置する場所の地名などを路線名とし、市道として認定しております。御質問の通称名については、市としては新たな取り組みとなりますので、さまざまな角度から検討を重ね、現在、生活の一部として使われている人間道路や中町こみせ通りなどのように、地域に親しまれ、なじみが生まれ、さらに観光などにも結びつくような通称名を、議員が提案の路線を含め、必要と思われる路線について、決めることに向けて幅広く考え、取り組んでいきたいと思います。以上です。

◎議長（工藤和子） 選挙管理委員会事務局長。

◎選挙管理委員会事務局長（高橋純一） 私からは、選挙立候補の届け出について、提出書類についてお答えいたします。

選挙立候補の届け出書類につきましては、公職選挙法や公職選挙法施行令・公職選挙法施行規則にのっとり、全国でほぼ同じ内容の様式となっております。

なお、黒石市議会議員一般選挙における提出書類につきましては、候補者届出書と添付書類並びに自動車使用等の公営に関する届出書と添付書類などとなっております。

また、提出書類を市独自にわかりやすくという御指摘につきましては、届け出等に関する記載例について、よりわかりやすくするための工夫を凝らし、候補者の方が届け出しやすい環境づくりに、より一層努めてまいります。私からは以上です。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 私からは、教育行政についてのア、東公民館の現況について、公民館の事務室が玄関から離れているため、来館者が玄関先で声がけしなければならぬ不都合が生じていることについてどう考えるか。公民館が老朽化していることに対して、施設の改修や改築を考えているのかについてお答えいたします。

来館者へ御不便をおかけしていることにつきましては、教育委員会でも公民館職員から伺っており、対応策として、玄関にインターホンなどを設置できないか、検討しております。

また、事務室の場所を示すための案内をわかりやすく表示するほか、公民館職員が勤務している時間帯は事務室の扉を開けてもらうようお願いし、できる限りの範囲で対応してまいります。

次に、公民館の老朽化に対する施設の改修や改築につきましては、現在のところ考えておりませんが、毎年、各公民館及び地区センターにおいて改修が必要と思われる箇所を調査し、限られた予算の範囲で改修を行っております。

次にイの、黒石東小学校の学校給食について。1つ目として、建物の完成が年度内ぎりぎりだが大丈夫か。2つ目として、配膳などの練習や準備は、黒石小学校も含めてどのように考えているか。3つ目として、アレルギーへの具体的な対応について。4つ目として、地産地消についてどのように考えているかについてお答えいたします。

まず、建物の完成についてですが、黒石東小学校の工期は令和2年3月13日までであり、年度内での完成予定となっております。

次に、配膳などの練習や準備についてですが、黒石東小学校の工期は3月13日までであることから、新学期開始までには約3週間以上あることとなります。過去に、六郷小学校では給食を再開するための準備期間が1週間であったことから、3週間以上あれば、準備期間として十

分な時間が確保されているものと考えております。また、黒石小学校の工期は3月19日までであり、こちらも同様に、給食実施に向けた準備期間は十分確保されているものと考えております。なお、児童及び先生方の配膳の練習については、今後、学校側と協議・検討を重ねていく予定であり、円滑な給食実施が行われるように準備を進めてまいります。

次に、アレルギーへの具体的な対応についてですが、アレルギーがある児童に対しては、除去食、代替食、その他、別の献立を作成・提供し、保護者に食べるかどうかを判断してもらうなど、個々の児童の状況に応じて対応していく予定です。

最後に、地産地消についてですが、給食における地産地消は、食材をとおして地域の産業や文化を理解し、関心を持つことにつながっていく、食を通じた教育になるものと考えておりますので、仕入価格や時期的な食材も考慮しながら、地元で供給できる食材を優先的に取り入れ、安心・安全な地場産品を盛り込んだ独自性の高い献立の提供に努めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員の再質問を許します。13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 私は、財政に関して、聞き取りの段階で、決算ということで質問をすれば、黒字・赤字を含めて決算の内容を報告していただけると勝手に思い込んでいたので、再質問で決算の内容、黒字か赤字かをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 平成30年度の決算でございますけれども、黒字か赤字かと言われますと、黒字となる方向です。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 金額は、どれくらいが見込まれるでしょうか。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 金額につきましては、現在、会計課で決算の確認作業中です。8月の中旬に、会計管理者から市長へ決算が提出される予定となっております。それを受け、監査委員の審査に付することとなりますので、例年であれば、監査委員からは8月の早い時期に市長に返ってくるようになります。ですので、それからの報告になります。

9月議会に報告して議会の認定に付することになりますので、今ここで金額云々ということは控えさせていただきたいと思います。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 公債費比率が平成30年度で18%。これは、大分昔から計画上そうなるとい

うことで、それに向かってきたわけです。平成31年度は17%台ということで、これもまた今までの報告の中にあるわけですがけれども、黒石市の場合は24%台、そしてまた20%を切るのに、すごい年数がかかってきたという記憶があります。標準財政規模が、黒石市の場合は88億円ということで、20%台のときは、ほんの零点何%くらいしか下がってこなかった時期が何年もあったわけですがけれども、公債費比率が0.1%なり1%減っていくことに対しての考え方、どれくらいの額が減るとそういうふうになるのかを、基本的でいいですから教えていただきたいと思えます。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 議員がおっしゃったとおり、標準財政規模分の幾らということになります。標準財政規模が現在は約88億円となっておりますので、8800万円で1%の変動が起きることになります。実質公債費比率は3年間の平均で出しますので、その年だけ18%とか17%に下がったからといって、そのとおりになるわけではありません。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 今までの標準財政規模の推移、その時代時代ですと88億円なのかを、わかる範囲で結構ですので教えていただきたいと思えます。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 標準財政規模は、その自治体が標準的な行政サービスをするにはこのくらいかかるであろうというものですけれども、今ここにデータはございませんが、以前は100億円に近い90億円台、それが徐々に徐々に減ってきて、現在は88億円になっております。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 単純な質問で申しわけございませんけれども、平成31年度は公債費が15億円台、平成30年度は資料を持っていませんので正しい数字は言えませんけれども、もし公債費が16億円になると、黒石市の場合は、元金と利子は大体どれくらいになってるかを、概要で結構ですので。半々なのか、何割が利子なのかという。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 済みません、これも資料を持ち合わせていないのですが、半々ということはなく、当然、利息のほうが少ないです。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 静かにしてほしいと思えます。やじ的なものは余り言わないで、よろしく願いいたします。

◎議長（工藤和子） 静粛にお願いします。13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 黒石市の財政は、平成31年度はいろいろな事業をやることで起債残高もふえることになっていくわけですがけれども、計画上、問題はないという解釈で、今までどおりの答弁でよろしいか、確認のためお願いいたします。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） これまでやってきた事業、例えば今は学校を建設しておりますし、また、ことしは黒石東小学校の給食施設も建設します。今後は図書館、市民サービス施設の整備も行っていく予定ですが、これにつきましても全て財政の状況を鑑みて進めていくことになりますので、黒石市に見合った施設ということで進めていきたいというふうに思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 財政に関してはありがとうございました。

次に、旧大黒デパート解体についてです。当初は、業者から解体費は1億2000万円、もしくは1億5000万円くらいかかるだろうというような話があったわけですがけれども、ここに至って、アスベストが多いということでもあります。今の答弁でいくと、10月中旬に結果が出て、令和2年から解体工事が始まるということで、1年なのか2年なのか、そちらでつかんでいるものがあればお答えいただきたいと思います。

◎議長（工藤和子） 総務部長。

◎総務部長（阿保正一） 解体に係る期間も含めて、10月までには結論が出ると考えてございます。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） ありがとうございます。

次3番、市立図書館についてであります。

規模は1500平米、金額はこれからということでもありますけれども、企画のほうで先進地、研究になるようなところを視察したと聞いております。できたら、視察した場所、規模と金額がもしわかれば、参考までにお知らせ願いたいと思います。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） 先進地視察ですがけれども、県内では隣の平川市、つがる市、十和田市。県外では、岩手県岩泉町、紫波町のオガール、東京都千代田区、神奈川県大和市の9館を視察見学しております。金額については把握しておりません。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） わかりました。私たちもまた視察をして勉強していきたいと思います。この図書館の建設について、有識者の意見や懇談会、市民のワークショップ等を開催しながら、

いろいろなものを集約していくということでありますけれども、最後にはどういうふうな集約をして、最後には誰が建設にゴーサインを出すのかをお尋ねしたいと思います。

◎議長（工藤和子） 企画財政部長。

◎企画財政部長（鳴海淳造） いろいろ市民の意見をお伺いして、それと先ほどから何度も申し上げてますが、財政状況も鑑みて、最終的に市が判断していくこととなります。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） さっき壇上でも述べたとおり、人の考え方、市民の考え方はさまざまでありまして、今ここに至っても不必要だと言う方もいます。もっと違うほうにお金を使うべきだという方もいるのも確かですけれども、先人の方々の悲願が込められておりますので、市民の方から賞賛を受けるような立派な、いい、温かみのあるような図書館建設をしっかりとさせていただきたいということで、これはお願いであります。

今度は、教育行政についてです。東公民館についてです。回って歩くと、ほとんどのところが同じ時期に建設されておるのか、おんぼろと言えば失礼ですけれども、古くなっています。地域の方々にとっては、もう少し温かみのある、改修でもいいので、年次、順番に考えていってあげていただきたいというのが私の思いであります。実際、その当時になってから、数多く、5カ所とか6カ所になると思いますので、今からそういうことを想定しながら、教育委員会の中で会議の中に議題として上げていただいて進めていただきたいという考えであります。

それと、給食についてですが、配膳とか練習を考えた場合、3週間でできるということですが、前の1週間でできたというのは、学校が小さかったからでありますので、これは、もう少し研究していただきたいと思います。

（「議事進行について」と呼ぶ者あり）

◎議長（工藤和子） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 村上啓二議員から出ろと言われました。これについてどう思いますか。

（「議事進行について」と呼ぶ者あり）

◎議長（工藤和子） 15番村上啓二議員。

◎15番（村上啓二） 私はやじっていないのに、やじったようなことを言ったので、それを聞いた北山議員は何と言ったんだ。やめてくださいとかと表現したんですよ。ですから、そういうことですよ。

（「議長」と呼ぶ者あり）

◎議長（工藤和子） 12番北山一衛議員。

◎12番（北山一衛） 私は議長に対して議事進行と言ったわけです。それだけです。

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

◎議長（工藤和子） 静粛にお願いいたします。議事を進めます。教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 給食の準備ですけれども、教育委員会としては3週間あれば対応できるものと考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） アレルギー対策ですけれども、人数は把握しているのかどうか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（須藤勝美） 今後、各学校をとおして把握していく予定となっております。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 5番目の黒石コミュニティファーム事業ですけれども、るる答弁がありました。私も二、三回場所を見に行き、何となくホットな感じの事業で喜んでいるわけです。ただ、ことし初めてですので、あそこの畑仕事をしている方からすると、場所によっては水にくみに行くのが遠いとか、これから、あそこをもっと暖かいような形で、手づくりでも結構ですので、看板を設置して盛り上がるような環境づくりを考えていただきたいと思います。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 看板については、道路沿いというよりも市民農園の奥側には市民農園という看板を設置していましたが、議員におかれましては、なかなか奥のほうまで見られなかったのかなと思っていました。今後また、どういうふうに設置すれば見やすいのかということも検討したいと思います。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 21区画ということで、予定より1区画多かったということです。来年もまた拡充・拡大して、市民に広めていくのかどうかということをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 先ほども答弁の中でもお話ししましたが、実際に利用した方々の声も聞きながら、アンケートも実施する予定としております。そのことによって希望する利用者の方がふえそうであれば、土地についてもまだ利用できるスペースもございますので、要望があれば拡大していきたいと考えています。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） いい事業は大いに拡充していただきたいと思います。

次に、6番の黒石特産果樹ブランド化推進事業についてですけれども、これは、当初から1人という考えでよかったのかどうかをお尋ねします。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 展示圃を設置ですので、当初から1名の予定でございます。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） そうすれば、考え方とすると、この1名の方が3年か5年、その間に試験栽培してもらって、成功して、その方に継続でシャインマスカットをやっていただくということだけでいいのかを、もう一度お願いいたします。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 中田議員が今お話したとおりです。市では、5年間展示圃として設置して、先進農家の方からの技術指導を仰ぎ、ゆくゆくは今現在利用している方に使用の権利といいますか、それらを引き継いで、今現在はトマトをやっている方ですけれども、シャインマスカットとあわせた複合経営を実施していただければいいのかなと思っております。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 10アール当たり150万円を見込めるということですが、普通のブドウに比べると何倍にもなる金額なのでしょうか、お尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 普通のブドウというのがどのブドウかちょっと——例えば、黒石市内でブドウを、スチューベンを栽培している農家は軒かあるようです。鶴田町のほうですと、かなり大きな面積でやっていますけれども、その所得が幾らかということでは把握はしてございませんけれども、シャインマスカットについては、価格が非常に高いような推移でいっていますので、先ほどお話しした10アール当たり150万円程度は確保できるのではないかというふうに考えております。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） もし、これが成功して、違う農家の方々も、自分たちもこういうものやってみたいとなった場合、そういう形で、市の支援とか、考え方というのは、この後あるかどうかということをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 先ほどの答弁の中でもありましたけれども、今回、展示圃を設置して、広く技術を習得してもらおうということではあるんですが、今現在携わっている1名の方以外にも、広く研修に参加するように呼びかけることとしております。その方が、研修を受けながら独自にシャインマスカットを栽培することも見込んでございますけ

れども、それらも期待しての実施でございます。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） ありがとうございます。次に、7番目の黒石花のみちクリーン運動についてです。何年か前に、このシバザクラの手入れを見たときは、人が多かくてすごいなという感動した年も過去にはありますけれども、一般質問で述べたとおり、今はすごく人が少ない。となると、元気がなくなるし、何となくやる気なり、今後また減っていく、気持ちがすたれていくのかなということを感じています。中部地区の方から、やるんであれば役所のほうでもっと考え方を新たにし、人をもっといっぱい集めてやるようなことをしていただきたいと言われたので、決してやめればいいではなくて、新たなる気持ちで物事に取り組んでいただきたいという思いでお尋ねします。

◎議長（工藤和子） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 今現在、先ほどもお話しましたけれども、中部地区振興協議会、西部地区連絡協議会で、現在、毎年草刈りを実施しています。そちらにも、再度また広く呼びかけるなどのPRをして、ボランティア活動に参加していただくよう、呼びかけをしたいと思っています。以上です。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） ありがとうございます。花のみちの中には西部地区分もありますので、私もできる限りやる日を聞きながら参加していかなければと思っております。そのようなことで、いい方向に向けていただきたいと思います。

次は、8番目の市内幹線道路の名称についてですけれども、前向きな形で物事を考えてくれるのかということ、黒石市には八間道路とか浜県道とかがありますので、もっと名称をいろんなところにつけていく、先ほど質問で言った2本もでありますけれども、市内全域ということを考えていただきたいと、将来的には思っております。まずは、前向きな形で、やる気ということをお尋ねいたします。

◎議長（工藤和子） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 先ほどの答弁でも、最後のところに取り組んでいきたいと思っておりますということで回答させていただきましたので、前向きという捉え方をさせていただいてよろしいかと思うんですけれども。先ほどの答弁の中でも触れたんですけれども、親しみですとか、なじみがないと、極端な話、行政で決めてしまってもそれはだめだと思っておりますので、その辺、いろいろ考えていきたいと思っております。

◎議長（工藤和子） 13番中田議員に申し上げます。残り時間約10分ですので、御協力お願いいたします。13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 最後に選挙立候補の届け出について、提出書類についてお尋ねいたします。記載例をしっかりとこれから検討していくということですが、そのところの課だけでなく、物事ってその中だけでものをやると、案外簡単なものが落ちたり、わからなかったりすることがありますので、幅広く吟味しながら物事をつくっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長（工藤和子） 選挙管理委員会委員長。

◎選挙管理委員会委員長（山田明匡） 中田議員の再質問にお答えしたいと思います。私自身が、以前、市議会議員を目指したときですけれども、同様に、選挙立候補の届け出の提出書類について、かなり難儀しました。複雑で紛らわしい様式だと思いましたが、歴代の選挙管理委員会の皆様が、知恵を絞り、長年培ってきた一枚一枚の申し込み用紙がなぜ必要なのか、理由はそれぞれあるかと思えます。記入しやすい申込用紙を念頭に、今後は当委員会で十分検討するようになりたいと思えます。なお、県の選挙管理委員会とタイアップしながらありますが、以上であります。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） あれ、さっきの答弁とちょっと違うんでない。さっきは様式を変えられない、記載例は変えることはできるというような……。もう一度お願いいたします。

◎議長（工藤和子） 選挙管理委員会事務局長。

◎選挙管理委員会事務局長（高橋純一） 様式は公職選挙法で決まっており、全国ではほぼ同じ内容となっておりますので、その点は変えることができません。議員が御指摘のとおり、先ほども申し上げましたが、記載例について、よりわかりやすく工夫し、立候補者が届け出しやすい環境づくりに、より一層努めてまいりたいと思えますので、よろしく申し上げます。

◎議長（工藤和子） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 最後が一番わかりやすい答弁をいただきました。何とかいい方向に物事をまとめていただきたいと思えます。以上です。

◎議長（工藤和子） 以上で、13番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎議長（工藤和子） これで通告のありました一般質問は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後 2時26分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

令和元年6月26日

黒石市議会議長 工藤和子

黒石市議会議員 三上廣大

黒石市議会議員 北山一衛